

陸普第六四七四號



陸軍兵器圖調製規定

昭和十二年十月二十九日

陸 軍 省 印 刷



0496

陸普第六四七四號

陸軍兵器圖調製規定制定ノ件關係陸軍部隊へ通牒

昭和十二年十月二十九日

陸軍省副官 梶淵 鎧一

陸軍兵器圖取扱規則第三條ニ基キ陸軍兵器圖調製規定ヲ別冊ノ通定メラレシニ付依命通牒ス

陸軍

陸軍兵器圖調製規定

目 次

第一章	總 則	1頁
第二章	樣 式	2頁
第三章	圖 示 要 領	2頁
第四章	一 般 圖 示 樣 式	3頁
第五章	各 場 合 圖 示 法	7頁
第六章	兵 器 圖 ノ 改 修 正	8頁
第七章	兵 器 構 造 要 領	8頁
第八章	地 金 ノ 品 質 記 入 法	9頁
第九章	雜 則	10頁
附 圖	1 ————— 47	11—57頁

陸軍兵器圖調製規定

第一章 總 則

第一條 本規定ハ陸軍兵器圖取扱規則ニ基キ陸軍兵器圖及陸軍兵器構造要領ノ調製ニ關シ規定スルモノトス

第二條 陸軍兵器圖ハ兵器ノ製造及検査上ノ要件ヲ具備セシムルヲ主眼トシ兼ネテ取扱、保存並兵器業務上ノ用途ヲ顧慮シ調製スルモノニシテ陸軍兵器圖取扱規則ニ依リ次ノ如ク區分ス

制式區分

陸軍制式兵器圖

陸軍假制式兵器圖

陸軍準制式兵器圖

陸軍兵器圖ノ分類

野 戰 兵 器 圖	野戰兵器ニ屬スル兵器ヲ現示ス
要 塞 兵 器 圖	要塞兵器ニ屬スル兵器ヲ現示ス
彈 藥 圖	彈藥ニ屬スル兵器ヲ現示ス
戰車輜重兵器圖	戰車及輜重兵器ニ屬スル兵器ヲ現示ス
器 材 圖	各種器材ニ屬スル兵器ヲ現示ス
基 本 圖	兵器設計上ノ素質並制式ヲ統一シタル部分品ヲ現示ス
共 通 圖	主トシテ器具器材又ハ屬品中制式ヲ統一シタル完成兵器ヲ現示シ共通表ヲ以テ共通關係ヲ表示ス

第三條 假兵器圖ハ製造及検査ニ支障ナキ範圍ニ於テ適宜ノ現示法ニ依ルコトヲ得ルモノトス但シ制式制定上缺クヘカラサル事項(制式區分、各種名稱等)ハ本規定ニ依リ之ヲ記入スルヲ要ス
假兵器圖ニハ銘記欄制式區分ノ右ニ「假圖」ト標記スルモノトス

第四條 陸軍兵器構造要領ハ陸軍兵器圖トシテ其ノ細部ヲ現示スルヲ不利トスル兵器ニ付之ヲ調製スルモノトス

第五條 本規定ニ使用セル名稱ノ意義次ノ如シ

全 體 圖	兵器ノ一般ノ結構及其ノ組成ヲ示シ之ニ主要部ノ寸法ヲ附シタル圖
組 立 圖	兵器結構ノ一部分ノ組立關係ヲ示シタル圖
分 解 圖	兵器部品ヲ箇々ニ示シタル圖
總 括 名 稱	兵器用途上數兵器ヲ一括シタル名稱ニシテ例ヘハ通信器材、職工具等ノ如シ
兵 器 名 稱	制式ヲ定ムヘキ兵器ノ名稱ニシテ例ヘハ八八式七糎野戰高射砲、九二式電話機、九一式繫留氣球、九〇式砲兵輕觀測車等ノ如シ
區 分 名 稱	一兵器ノ部分結構體ノ名稱ニシテ例ヘハ電話機ノ電鈴器、火砲ノ閉鎖機等ノ如シ
部 品 名 稱	單體部品ノ名稱ニシテ例ヘハ軸、軸筒等ノ如シ

但シ場合ニ依リ相互ニ連繋ヲ有スル部品數箇ヲ一括シテ名稱ヲ附シ之ヲ部品名稱ト稱スルコトヲ得例ヘハ「ピストン」棒ハ棒、軸筒、「ボルト」等ノ數部分品ヨリ成ルモ部品名稱トシテ取扱フカ如シ

第二章 様式

第六條 陸軍兵器圖(以下兵器圖ト略稱ス)及陸軍兵器構造要領(以下構造要領ト略稱ス)ハ之ヲ印刷スルモノトス但シ場合ニ依リ青寫眞ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七條 圖面ノ大サハ日本標準規格第 92 號紙ノ仕上寸法ノ A 列ニ依ルモノトス其ノ用途區分及輪郭等ハ附圖 1 ノ如シ

第八條 兵器圖及構造要領ノ様式ハ附圖 2 ノ如シ

第九條 兵器圖及構造要領ニハ通常目錄ヲ添附スルモノトス(附圖 3. 4. 5 参照)
但シ數葉ノモノ(第四十九條四項ノモノヲ除ク)ニハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十條 屬品ヲ有スル兵器圖ニハ通常屬品表ヲ添附スルモノトス(附圖 43 参照)

第十一條 兵器圖及構造要領ニハ兵器名稱若ハ總括名稱毎ニ一連ノ葉番號ヲ附スルモノトス

第十二條 名稱ハ下記各號ニ依リ之ヲ記入スルモノトス

一、制式區分及兵器圖ノ分類

「陸軍制式兵器圖、野戰兵器」陸軍制式兵器圖、器材等ト記入ス其ノ形式ハ附圖 6 ノ如シ但シ構造要領ニ在リテハ「陸軍兵器構造要領、器材」等ト記入ス

二、表題ノ名稱

圖葉ニ現示セルモノニ應シ總括名稱、兵器名稱、區分名稱等ノ順序ニ記入ス(附圖 6 参照)

三、構圖ノ名稱

全體圖ニハ「全體」組立圖ニハ「組立」ト記入ス其ノ位置ハ附圖 9. 10 ノ如シ

但シ全體圖、組立圖、分解圖ヲ區分圖示スルノ要ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

四、描寫面ノ名稱

同一物體ノ側面圖、平面圖等ヲ異ナル圖葉ニ描畫シタル場合ハ各面ニ「側面」「平面」等ト記入ス

五、假名ノ名稱

假名ノ名稱ニシテ文章内ニ記入スル場合ニハ之ニ括弧ヲ附ス例ヘハ「基板ノ取付ハ「ボルト」ニ依ル」ノ如シ

第十三條 銘記欄ニハ制式區分及兵器圖ノ分類、名稱、葉番號、制定年月日、調製部隊名等ヲ記入スルモノニシテ其ノ位置ハ圖ノ右下隅トス(附圖 6 参照)

第十四條 部品表ニハ部品ノ名稱、品質、員數、註記等必要ナル事項ヲ記入スルモノトス(附圖 7. 8 参照)

第三章 圖示要領

第十五條 兵器圖ハ兵器ノ構造ノ詳細、組成、寸法、重量等ヲ現示スルモノニシテ之ヲ描畫ハ全體圖、組立圖、分解圖ノ順序ヲ以テス(附圖 9. 10 参照)但シ構造簡單ニシテ全體圖又ハ全體圖ト組立圖若ハ全體圖ト分解圖ニ依リ圖示ヲ完結シ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 前條ノ兵器圖ハ下記各號ニ依リ描畫スルモノトス

一、分解圖ノ配列ハ組立圖ニ於ケル部品番號順トス

但シ製圖上之ヲ不利トスルモノハ此ノ限ニ在ラス(附圖 10 参照)

二、兵器圖ヲ直ニ製作分業圖ニ使用スルヲ便トスルモノニ在リテハ前號ノ部品配列ヲ一品一割式ト爲スコトラ得(附圖 11. 12 参照)

第十七條 兵器圖ニハ全體圖、組立圖、分解圖相互間ノ連繫ヲ明瞭ナラシムル爲下記各號ニ依リ符號及番號ヲ附與スルモノトス

一、符號ハ①、②、③……番號ハ①、②、③……ヲ用キ兵器ノ構造ニ依リ組合セ番號式或ハ一連番號式ニ附與ス(附圖 13 参照)

二、缺符、缺番ヲ有スル場合ニハ部品表外ニ之ヲ記入ス其ノ形式ハ次ノ如シ

②缺符 ⑤⑥⑦缺番

第十八條 構造其ノ他ノ要件ヲ十分ニ圖示シ能ハサル場合ニ在リテハ之カ要件ヲ努メテ詳細ニ註記スルモノトス

第十九條 總括的ノ重量及註記ハ圖ノ右方上部ニ部分的ノモノハ部品表ニ記入スルモノトス(附圖 14 参照)

但シ註記ニシテ上記ノ箇所ニ記入スルヲ不利トスル場合ニ在リテハ適宜所要ノ箇所ニ記入スルモノトス

第二十條 基本圖ハ日本標準規格ノ要領ニ依リ描畫スルモノトス

第二十一條 共通圖ハ一般兵器圖ニ準シテ描畫シ共通表ハ共通圖ヲ採用シタル兵器圖ノ名稱ヲ記録シテ各兵器ニ亘ル共通關係ヲ一覽シ得ル如クスルモノトス

第四章 一般圖示樣式

第二十二條 投影法ハ第一角法ニ依ルモノトス但シ場合ニ依リ第三角法ニ依ルコトラ得此ノ場合ニ於テハ其ノ方式ヲ示スヘキ註記ヲ爲スモノトス(附圖 15 参照)

注意 長物體ノ端面又ハ「フランジ」取付面等ノ描寫面ハ製圖方式上便宜的ノ描寫法ニシテ

第三角法トシテ取扱ハサルヲ以テ註記ノ要ナキモノトス

第二十三條 製圖ノ尺度ハ通常次ノ 17 種トス但シ已ムヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

$$\frac{1}{1}$$

$$\frac{1}{2} \quad \frac{1}{2.5} \quad \frac{1}{5} \quad \frac{1}{10} \quad \frac{1}{15} \quad \frac{1}{20} \quad \frac{1}{25} \quad \frac{1}{50} \quad \frac{1}{100} \quad \frac{1}{200} \quad \frac{1}{250} \quad \frac{1}{500} \quad \frac{1}{1000}$$

$$\frac{2}{1} \quad \frac{5}{1} \quad \frac{10}{1}$$

尺度表示用數字ノ大サ及記入ノ位置ハ概ネ附圖 16 ノ如シ

第二十四條 線ノ種類及用法ハ次ノ如シ

實 線 $\left\{ \begin{array}{l} \text{太 線} \text{ ————— 物體ノ見得ヘキ部分ヲ示ス線ニ用ウ} \\ \text{細 線} \text{ ————— 寸法線及引出線等ニ用ウ} \end{array} \right.$

點 線 ————— 物體ノ見ヘサル部分ヲ示ス線ニ用ウ

- 鎖線 { 細線 ----- 一、中心線及齒車ノ「ピッチ」圓ニ用ウ
二、物體ノ關係位置ヲ示ス爲ニ隣接部分等ヲ參考ニ畫ク線ニ用ウ
但シ細キ實線ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
三、圖面ニ畫カレタル物體ノ手前ニ在ル部分ヲ表ハス線ニ用ウ
四、削代ヲ表ハス線ニ用ウ
太線 ----- 切斷箇所ヲ示ス線ニ用フ

第二十五條 線ノ太サハ凡ソ次ノ標準ニ依ルモノトス JES製圖第七條ニ同シ

0.1mm 0.2mm 0.3mm 0.4mm 0.6mm

第二十六條 文字ノ字體及其ノ記入法ハ下記各號ニ依ルモノトス

- 一、漢字ハ楷書、假名ハ主トシテ片假名トシ其ノ大サハ活字ノ初號乃至六號及特號ノ8種トス(附圖 17 参照)
- 二、名稱ニ振假名ヲ附スル場合ニハ横書ノモノハ其ノ下方ニ、縦書ノモノハ其ノ右方ニ記入ス
- 三、「ローマ」字及「アラビヤ」數字ノ大サハ 2. 3. 4. 5. 7. 10. 14. 及 20mm ノ八種トシ字體ハ附圖 18. 19 ノ…如シ
- 四、文字ハ横書トシテ左ヨリ書ク但シ字列一行ノ場合ニ限り縦書トスルコトヲ得

第二十七條 寸法ノ記入法ハ下記各號ニ依ルモノトス JES製圖第十二條ニ同シ

- 一、寸法ハ物體ノ形狀ヲ明瞭ニ現シ得ル如ク十分ニ之ヲ記入シ且努メテ重複ヲ避ク(附圖 20 第1圖参照)
但シ正面圖、平面圖等ノ如ク相關聯スル圖ニ於テ圖ノ讀解ヲ容易ナラシムル爲重複記入スルハ此ノ限ニ在ラス
- 二、寸法ハ完成品ノ仕上リ寸法ヲ記入スルヲ一般トシ他ノ寸法ヲ示シタル場合ハ之ヲ註記ス
- 三、寸法ハ寸法線ヲ中斷シ其ノ部分ニ寸法線ノ方向ニ記入スルヲ普通トス
但シ狹小ナル區分ノ寸法線ニ在リテハ之ヲ中斷スルコトナク寸法線ニ沿フテ其ノ上方又ハ下方ニ記入スルコトヲ得(附圖 21 第 9. 12 圖参照)
- 四、製作又ハ組立ノ際基準トスヘキ箇所アルモノニ付テハ該箇所ヲ基準トシテ寸法ヲ記入ス(附圖 20 第2. 3. 4 圖参照)
- 五、鐵骨構造及建築物ノ構造線圖ニ於テハ寸法線ヲ省略シテ構造ヲ示ス線ノ一側ニ寸法數字ヲ記スルコトヲ得(附圖 21 第 11 圖参照)
- 六、板ノ厚ハ之ヲ圖示セサル場合ハ板ノ面ニ寸法數字ノ前ニ「t」ヲ附シテ之ヲ示ス(附圖 20 第 5 圖及附圖 21 第 12 圖参照)
- 七、平鋼ノ斷面ハ「幅×厚」ヲ以テ示シ(附圖 21 第9圖参照)形鋼ノ種類、寸法ハ該形鋼圖中ニ又ハ之ニ沿フテ記入ス又鋼材ノ全長ハ斷面寸法ノ次ニ示ス(附圖 21 第 9. 12. 13 圖参照)
- 八、同一間隔ニテ連續セル同種ノ孔ノ配置寸法ハ附圖 21 第 9. 10 圖ノ如ク記入スルコトヲ得

第二十八條 寸法線ノ引き方ハ下記各號ニ依ルモノトス JES製圖第十三條ニ同シ

- 一、多数ノ寸法線ヲ互ニ接近シテ引ク場合ニハ各線ノ間隔ハ努メテ一様トシ寸法ヲ記入スヘキ中斷箇所ハ互ニ喰違ヒタル位置ニ設ク(附圖 20 第 1. 2. 6 圖参照)
- 二、寸法線ノ補助線ハ寸法線ニ直角ニ引キ且僅ニ寸法線ヲ超エテ之ヲ延長ス寸法記入位置ノ關係上特ニ必要アル場合ハ寸法線ニ對シ適宜ノ角度ニテ補助線ヲ引クコトヲ得(附圖 20 第 7 圖参照)
- 三、對稱中心線ノ一侧ノミヲ表ハシタル圖ニ於テハ寸法線ハ其ノ中心線ヲ超エテ之ヲ若干延長スルヲ要ス此ノ場合延長セル線ノ端ニハ矢ヲ附セス(附圖 20 第 6. 8 圖参照)
- 四、對稱形狀ヲ有スル圖ニシテ大ナルモノ及特ニ多数ノ徑ノ寸法ヲ有スル圖ニ在リテハ前號ニ準シ且寸法線ヲ一層短縮スルコトヲ得(附圖 22 第 15 圖参照)
- 五、弦及弧ノ長サヲ示スニハ附圖 22 第 16. 17 圖ニ依ル

第二十九條 寸法線ノ矢ノ記入ハ下記各號ニ依ルモノトス JES製圖第十四條ニ同シ

- 一、寸法線ノ兩端ハ矢ヲ附ジテ之ヲ示ス若此ノ場合寸法ヲ記入スル餘地ナキトキハ寸法線ヲ外側ニ引キ矢ハ内方ニ向ケテ之ヲ附ス(附圖 22 第 14 乃至第 18 圖参照)
- 二、圓弧ノ半径ヲ示ス寸法線ニハ弧ノ側ニノミ矢ヲ附ス
(附圖 22 第 19 圖参照)

第三十條 寸法數字ノ記入ハ下記各號ニ依ルモノトス 一項ノ附圖 34ヲ除キ JES製圖第十五條ニ同シ

- 一、寸法ハ耗單位ヲ以テ記入ス若他ノ單位ヲ用ウル場合ハ之ヲ明示スルヲ要ス(附圖 34 参照)
- 二、寸法數字ハ其ノ頭部ヲ上向又ハ左向ニ記入スルヲ本則トス
- 三、附圖 22 第 20 圖ニ示スカ如キ場合ニ於テ「ハッチング」ヲ施シタル 30°ノ角度以內ニハ努メテ寸法ヲ記入セサルモノトシ已ムヲ得サルトキハ適當ナル方法ニ依リ記入ス
- 四、寸法數字ハ線ニテ切り離ササル箇所又ハ二ツノ寸法線ノ交叉スル箇所ニ記入セス
- 五、寸法數字ノ代リニ記號文字ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合其ノ數値ハ別ニ之ヲ表示ス
(附圖 22 第 21 圖参照)
- 六、徑ノ記號 ϕ 及正方形ノ記號 $\square$ ハ寸法ノ右ニ之ヲ肩書ス
(附圖 22 第 23 圖参照)

但シ圓形又ハ正方形ナルコト明ナル場合ニハ之ヲ省略ス(附圖 22 第 22 圖参照)

- 七、附圖 22 第 23 圖及附圖 23 記入例ニ示スカ如キ細キ交叉對角線ハ之ヲ施セル面カ平面ナルコトヲ示シ側面圖、平面圖ヲ缺クカ爲其ノ平面ナルコトヲ知ルコト能ハサル場合ニノミ用ウ
- 八、半径ヲ示ス寸法線ヲ中心點迄引カサルトキハ寸法ノ右ニ「R」ヲ肩書ス(附圖 22 第 24 圖参照)
- 九、圓弧ノ中心點カ弧ヨリ遠キトキ之ヲ弧ノ附近ニ於テ示ス必要アル場合ニハ附圖 22 第 24 圖ノ例ニ依ル
- 十、特ニ尺度ニ依ラスシテ畫キタル部分ノ寸法ハ數字ノ下ニ線ヲ引クヲ要ス(附圖 22 第 23. 24 圖参照)

但シ附圖 21 第 10. 12 圖ニ示スカ切斷省略セシ部分ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 「 $\frac{a-b}{l}$ 」ハ中心線ニ平行ニ又勾配 $\left(\frac{a-b}{2l}\right)$ ハ稜線ニ平行ニ記入スルモノトス

(附圖 23 参照) JES 製圖第十六條ニ同シ

第三十二條 ねぢ、ばね、齒車、紙ノ略圖ハ附圖 24. 25. 26. 27 ノ如シ JES 製圖第二十四條ニ同シ

第三十三條 ねぢノ記入方法ハ下記各號ニ依ルモノトス JES 製圖第十九條ニ同シ

一、普通ねぢ

徑又ハ稱呼ノミヲ記入ス(附圖 28 第 1 圖参照)

二、細目ねぢ

「ウイットウオース」細目ねぢハ徑又ハ稱呼ト山數、「メートル」細目ねぢハ徑ト「ピッチ」トヲ記入ス(附圖 28 第 2 圖参照)

三、管用ねぢ

稱呼ノミヲ記入シ尙其ノ前ニ「管用」ト附記ス

四、梯形ねぢ

29° 梯形ねぢハ徑ト山數トヲ、30° 梯形ねぢハ徑ト「ピッチ」トヲ記入シ山數又ハ「ピッチ」ノ前ニ「梯」ト附記ス(附圖 28 第 3 圖参照)

五、二重ねぢ、三重ねぢ等ハ前各號ニ依ルノ外「二重」「三重」等ト附記ス(附圖 28 第 4 圖参照)

六、左ねぢハ前各號ニ依ルノ外「左ねぢ」ト附記ス

七、「ウイットウオース」ねぢト「メートル」ねぢトヲ記號ヲ以テ區別スルニハ前者ニハ W 後者ニハ M ヲ用フ

八、ねぢノ略圖ニ於テ谷ノ底ヲ示ス線ハ細キ實線トス

第三十四條 公差及嵌合ノ記入法ハ下記各號ニ依ルモノトス JES 製圖第二十、二十一、二十二條参照

一、寸法公差ヲ數値ニテ示ス場合ニハ稱呼寸法ノ次ニ上下ノ寸法差ヲ附記ス上ノ寸法差ハ寸法線ノ上ニ下ノ寸法差ハ寸法線ノ下ニ記入ス寸法差カ零ナルトキハ「〇」ヲ記入ス(附圖 29 第 1 圖参照)

二、限界「ゲージ」方式ニ依ル公差ハ稱呼寸法ノ右ニ嵌合ノ種類ノ記號ヲ記入シテ之ヲ示ス(附圖 29 第 2 圖参照)

三、同一ノ稱呼寸法ニ對シ孔及軸ニ對スル嵌合ノ種類ヲ併記スル必要アル場合ハ孔記號ヲ寸法線ノ上ニ軸記號ヲ寸法線ノ下ニ記入ス(附圖 29 第 3 圖参照)

第三十五條 表面ノ仕上程度ヲ區分スル必要アルトキハ通常記號ヲ用キ又加工法ヲ指定スル必要アルトキハ記號ノ傍ニ之ヲ記入スルモノトス(附圖 30 参照) JES 製圖第二十三條ニ同シ

第三十六條 斷面ノ圖示ハ附圖 31 ニ依ルモノトシ要スレハ圖ノ見解ヲ容易ナラシムル爲「ハツチン」ヲ施スコトヲ得

第三十七條 熔接法ハ主トシテ註記ヲ以テ示シ特別ノ場合ノ外盛金ノ圖示ヲ省略スルモノトス(附圖 32 参照)

第三十八條 度量衡其ノ他ノ諸單位ノ主ナル記號ト其ノ數量ノ記入形式ハ附圖 33. 34 ノ如シ

第三十九條 重量ハ下記表示數ニ應スル單位數ヲ以テ示シ端數ハ之ヲ整理シ「約」ノ字ヲ附記スルモノトス

但シ重要ナル關係ヲ有スルモノニアリテハ此ノ限ニ在ラス

表 示 数 <i>g</i>	単位 <i>g</i>	記 載 例
100 未 満	5	約 80 <i>g</i> 85 <i>g</i>
100 以上 500 未 満	10	約 300 <i>g</i> 350 <i>g</i>
500 以上 1,000 未 満	50	約 700 <i>g</i> 750 <i>g</i>
1,000 以上 5,000 未 満	100	約 2 <i>kg</i> 2.1 <i>kg</i>
5,000 以上 10,000 未 満	500	約 8 <i>kg</i> 8.5 <i>kg</i>
10,000 以 上	1,000	約 235 <i>kg</i>

重量ノ公差ヲ必要トスル場合ニハ重量數字ノ次ニ±ヲ附シテ之ヲ示スモノトス

第四十條 屬品工具等ニシテ裝著又ハ箱内裝填位置ヲ現示スルノ必要アルモノハ通常其ノ景況ヲ細キ實線又ハ鎖線ヲ以テ圖示スルカ若ハ名稱符號等ニ依リ之ヲ示スモノトス(附圖 35. 36 参照)

第四十一條 左右、前後等ニ裝著又ハ配置スヘキ同形或ハ正反對ノ形狀ヲ有スル部品ノ圖示ハ附圖 37ニ依ルモノトス

第五章 各場合ノ圖示法

第四十二條 部品及屬品ニシテ日本標準規格、同陸軍補設規格及基本圖ノモノヲ採用シタル場合ハ概ネ附圖 38 乃至 42 ノ形式ニ依リテ之ヲ圖示シ日本標準規格ノモノニハ〔(JES)〕同陸軍補設規格ノモノニハ〔(補)〕基本圖ノモノニハ〔(基)〕ノ標記ヲ爲シ其ノ區分ヲ明瞭ナラシムルモノトス但シ日本標準規格ノ標記ハ他トノ區分不明瞭ナル場合ニノミ附スルモノトス

第四十三條 屬品等ニシテ共通圖ノモノヲ採用シタル場合ニハ屬品表ニ〔(共)〕ノ標記ヲ附シ(附圖 43 参照) 通常該共通圖ヲ兵器圖ノ末尾ニ添附スルモノトス

第四十四條 前二條以外ニ於テ他兵器ノ部品屬品等ヲ採用シタル場合ハ該圖ヲ描畫シ之カ共通ノ關係ヲ示ス爲其ノ部品屬品等ノ原所屬兵器ノ名稱ヲ註記スルモノトス
但シ交換性乏クシテ統一ノ價值少ナキモノ又ハ爾後ノ修正ニ煩ハシキ關係ヲ及ホスト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 前條ノ場合ニ於テ圖ノ調製特ニ急ヲ要スルモノ等ニ在リテハ採用シタル部品屬品等ノ圖ヲ省略スルコトヲ得

但シ部品ノ圖ヲ省略ハ該採用部品カ少クモ兵器一部ノ結構ヲ成形スル場合ニ限ルモノトス

第四十六條 前條ニ於テ省略シタル部品屬品等ノ圖ハ之ヲ複製シ當該兵器圖ノ末尾ニ添附スルモノトス

第四十七條 市井販賣品ヲ其ノ儘若ハ一部改修ノ上兵器又ハ其ノ部品ニ採用スル場合ニ在リテハ兵器圖中ニ一般ノ結構ヲ圖示シ要スレハ主要部ノ寸法重量諸元及必要ナル事項ヲ記入シ其ノ他ハ適宜省略スルコトヲ得

但シ其ノ重要ノ度ニ應シ公差範圍ヲ定メ若ハ數字等ニ〔約〕ヲ冠スル等適宜ノ方法ヲ以テ其ノ意義ヲ現示シ尙普通販賣品ニ依ル旨ヲ註記スルモノトス(附圖 44 参照)

第四十八條 兵器又ハ其ノ部品ニシテ特許法若ハ實用新案法ニ依ルモノヲ採用シタル場合ニ在リテハ

次ノ例ニ依リ一般註記ニ記入スルモノトス

例 ……ハ次ノ特許ニ依ル

特許番號 113673

特許年月 昭和11年1月

特許権者 金屬材料研究所長

但シ祕密特許ニ在リテハ特許番號ノミヲ記入スルモノトス

第四十九條 機(祕)密兵器圖ハ下記各號ニ依リ陸軍兵器機(祕)密取扱規程ニ定ムル標記及所要ノ圖示
區分ヲ爲スモノトス

一、第一級及第二級祕密兵器圖ニ在リテハ次ノ各項ニ依リ祕密ヲ要セサルモノヲ區分シテ別
綴トナシ普通圖トシテ取扱ヒ得ル如ク圖示ス但シ圖葉僅少ニシテ之カ區分ヲ困難トスル等
ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

イ、第一級祕密兵器ニ在リテハ全體圖、組立圖竝祕密ヲ要スル部位ヲ現示シタルモノヲ秘
密圖トシ部品屬品等ニシテ其ノ祕密ヲ窺知シ得サルモノハ特ニ之ヲ普通圖トス

ロ、第二級祕密兵器ニ在リテハ祕密部位ヲ現示シタルモノニ限リ之ヲ祕密圖トス

但シ全體圖、組立圖ニ於テモ現示セラレタル部位カ其ノ祕密ノ性能ヲ窺知シ得ルモノハ
之ヲ祕密圖トス

二、機密兵器圖及前號ノ祕密圖ノ標記ハ圖葉毎ニ輪郭外ノ右肩ニ縦書ス

三、機(祕)密兵器圖ハ圖葉僅少ナル場合ニ在リテモ目錄ヲ添附シテ圖面ノ枚數ヲ確實ニ記録
シ置クヲ要ス

四、祕密兵器圖ノ目錄ハ附圖 5ニ依ル

第六章 兵器圖ノ改修正

第五十條 兵器圖ノ改修正ハ圖及修正表ヲ以テシ圖ハ改修正ノ狀況ニ依リ切貼圖、引替圖、追加圖ノ
三種ニ區分ス

但シ寸法數字、名稱、葉番號、部品ノ削除等ノ如キ簡單ナル修正ニシテ圖ヲ添附スルノ要ナ
キモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

修正表ニハ要スレハ「修正箇所指示用圖」ヲ添附シ其ノ指示ヲ明瞭ナラシム此ノ際該圖ニハ
「修正箇所指示用圖」ノ表題ヲ掲クルモノトス

第五十一條 修正圖ノ様式ハ附圖 45ノ如ク又修正表ノ様式ハ附圖 46ノ如シ

第七章 構造要領

第五十二條 構造要領ヲ以テ制式ヲ定ムヘキ兵器ハ概ネ次ノ如シ

一、市井販賣品(外國輸入品ヲ含ム)ヨリ採用スル兵器ニシテ兵器圖ヲ調製シ其ノ構造ノ細部
ニ亙リ規定スルヲ不利トスルモノ

二、兵器ノ構成上又ハ製造上ノ諸件カ尙進歩ノ過程ニ在リテ兵器圖ヲ調製シテ細部ノ現示ヲ
爲スモ其ノ價值少ナキモノ

三、戦利兵器及部外ヨリノ保管轉換兵器等ニシテ構造ノ細部ニ亙ル兵器圖ノ調製困難且其ノ

價值少キモノ

第五十三條 構造要領ハ兵器ノ制式ヲ現ハスニ十分ナラシムル爲通常所要ノ圖ヲ添附シ其ノ用途、組成、品質、特性、精度並機能等ヲ記述スルモノトス又部品屬品等ニ在リテモ其ノ構造機能等ノ詳細ナル圖示ヲ必要トスルモノハ之ヲ附圖トシテ添附スルモノトス

第五十四條 構造要領ハ兵器毎ニ之ヲ調製スルモノトス其ノ記載例ハ附圖 47 ノ如シ

第五十五條 構造要領ノ改修正ハ概ネ兵器圖ニ準スルモノトス

第五十六條 構造要領ヲ以テ制式ヲ定メタル兵器ノ細部ハ仕様書ニ依ルモノニシテ製造若ハ購買ノ都度之ヲ調製ス但シ第五十二條第三項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十七條 仕様書ハ構造要領ニ規定セル條件ニ準據シ之カ製造修理並検査上必要ナル細部ノ要件ヲ記載スルモノトス其ノ記載事項概ネ次ノ如シ

- 一、用途
- 二、構造及機能(要スレハ所要ノ圖ヲ附ス)
- 三、主要諸件
- 四、材質加工程度及方法塗裝等製作ニ關スル要件
- 五、屬品並豫備品ノ數量其ノ他ニ關スル事項
- 六、検査
 - イ、素材検査
 - ロ、部品検査
 - ハ、竣工検査
- 七、其ノ他一般注意事項

第八章 地金ノ品質記入法

第五十八條 日本標準規格及陸軍地金假規格ノ地金ヲ使用スル場合ニハ該規格ニ規定セル品質ノ種別名稱又ハ其ノ記號ヲ記入シ地金ノ品質ニ關スル註記及熱處理ノ註記ヲ省略スルモノトス

第五十九條 陸軍地金假規格ノ地金ヲ使用シタル場合熱處理ノ效果ヲ有スヘキ鋼ハ「陸軍地金假規格ト兵器圖トノ關係規定」ニ依リ熱處理ヲ施スヘキモノナルモ熱處理及熱處理後ノ金質微數ノ註記ヲ省略スルモノトス

日本標準規格ノ地金ヲ使用シタル場合ニ在リテモ亦之ニ準ス

第六十條 日本標準規格若ハ陸軍地金假規格ニ示ササル地金ヲ使用スル場合ニハ其ノ地金ノ名稱及條件ヲ註記スルモノトス

第六十一條 工具ノ局部又ハ部品ノ硬度ヲ要スル部ニ焼入後微弱ナル焼戻ヲ行フヘキ場合ニハ「調質」ト註記シ要スレハ其ノ條件ヲ附記スルモノトス

但シ鋸、圓砥修正器ノ齒等ノ如キ調質スヘキコト明瞭ナルモノニハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條 ばね鋼(第五號ヲ除ク)ハ焼入後微弱ナル焼戻ヲ爲スヘキモノナルモ「調質」ノ註記ヲ省略スルモノトス

第六十三條 工具ノ刃部ニ體ト異ナル鋼ヲ附スル場合ニハ「附刃」ト註記ス此ノ場合ニ於テ特ニ條件ヲ要セサルモノニ限リ「調質」ノ註記ヲ省略スルモノトス

第六十四條 鑄鋼品ハ概ネ焼鈍ヲ爲スヘキモノナルモ「焼鈍」ノ註記ヲ省略スルモノトス

第六十五條 陸軍地金假規格ノ鑄鋼品、鑄鐵品、青銅、黃銅等ニシテ特ニ地金ノ種別ヲ示スノ必要ナ

ク製造所ニ於テ其ノ用途ニ適當ナル地金ヲ選擇セシムヘキ場合ニハ單ニ「鑄鋼品」「鑄鐵品」

「青銅」又ハ「黃銅」等ト記入スルモノトス

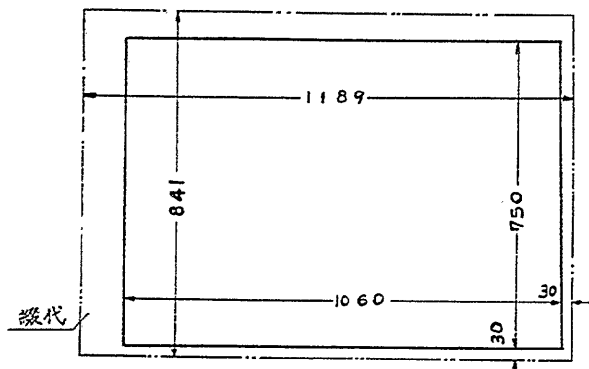
日本標準規格ノ場合ニ在リテモ亦之ニ準ス

第九章 雜 則

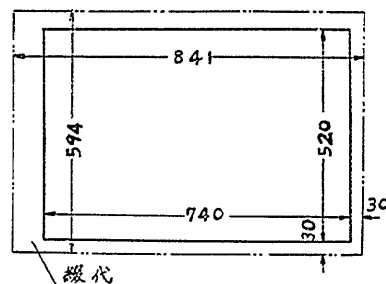
第六十六條 兵器圖ヲ増刷及改刷セシトキハ其ノ年月日及番號ヲ制定年月日及番號ノ下部ニ記入スル

モノトス(附圖 6 參照)

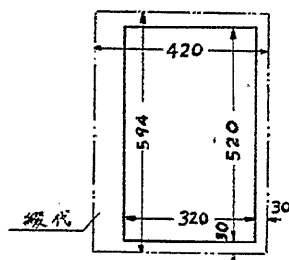
A 列 0 番



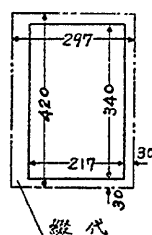
A 列 1 番



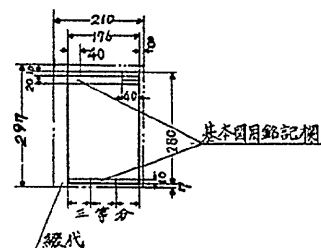
A 列 2 番



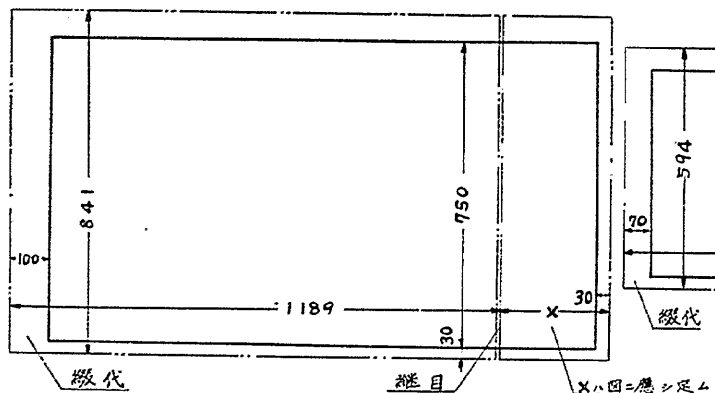
A 列 3 番



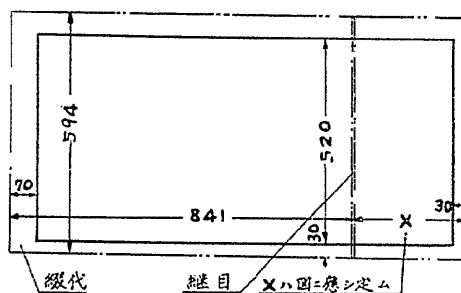
A 列 4 番



A 列 0 番 延長



A 列 1 番 延長



圖紙及銘記欄用途區分表

圖紙區分	用 途 例	銘 記 欄
1 番	普通兵器圖(構造要領)共通圖及修正圖=使用ス但シ	銘記欄ハ兵器圖及同切貼修正圖ノ二種型式トシ其ノ大サハ圖紙區分ニ拘ラス總テ一定トス(附圖6及45参照)但シ基本圖ノ銘記欄ハA列4番圖紙及附圖2ニ示スカシ
2 番	普通兵器圖=於ケル2番圖紙ハ通常圖葉間ノ挿入用トシテ使用ス	
3 番	修正圖=使用ス	
4 番	基本圖、修正圖=使用ス	
0 番	A列1番圖紙ニ描畫シ得サル圖ノ場合ニ使用ス	
0 番 延長	綴圖ノ大サハA列1番圖示ニ依リ之ニ相當スル如ク	
1 番 延長	縁折ス	

一 般 ノ 圖 及 構 造 要 領

昭和何年何月何日 陸軍何々部 學務長 某 職 印

↑上申用ノ分ニ記載ス

A

制式區分	兵器類別	番 号
名 称		類別
制定年月日及番号		不備分
調製部隊名		

↓發布用ノ分ニ記載ス

基 本 圖

昭和何年何月何日 陸軍何々部 學務長 某 職 印

↑上申用ノ分ニ記載ス

B

制式區分	兵器類別	番 号
名 称		類別
制定年月日及番号		不備分
調製部隊名		

↓發布用ノ分ニ記載ス

- 備考 一、既制定圖彙中ニ挿入スル圖面ノ案番號ハ「5-1」
「5-2」「5-3」等ト記入スルモノトス
- 二、A部欄ハ兵器原圖檢印用ノモノニシテ欄ハ其ノ
部隊所用ノ形式ニ依ルモノトス
- 三、基本圖ノ上申用ノモノニ在リテハ上申年月日記
名捺印ノ爲B部紙代ヲ規定寸法ヨリ所要幅タケ
大ニスルモノトス

添 附 圖 ヲ 有 ス ル 場 合 ノ 記 入 例

陸軍制式兵器圖		何々-----車 目 録			
野 戦 兵 器					
葉番号	名 称	葉番号	名 称	葉番号	名 称
1	接統車	51-56	制轉機		
2	属品表		属 品		
3-6	全体	57	上被、上被留紐		
7-40	車体	58	背囊縛革、縛具革條		
41-50	車台				
添 附 図					
所 属 兵 器 圖		區 分	標 用 品		
名 称	葉番号				
何 々 車	31-50	車	全部		
〃	51	車 台	軸臂、側梁、側梁副板		
〃	52	制 轉 機	全部		
〃	53		誘導螺、誘導桿甲、誘導桿乙		
何々運搬車	64	属 品	制轉螺桿被		
共通圖	第1号		水囊		
〃	第7号		蹄鉄釘囊		
〃	第8号		繫馬抗		
〃	第9号		繫馬索		
〃	第10号		両頭鎚		
〃	第15号		円匙		
〃	第16号		十字鋏		
〃	第19号		手斧		
〃	第20号		手斧被		
〃	第30号		携帶燈		
〃	第31号		蠟燭匣		
〃	第32号		蠟燭插		
枚数合計		(枚数変更ノ場合ハ其ノ数ヲ 逐次右方ニ記入スヘシ)		58枚 添附図 36枚	

一 級 兵 器 用

陸軍制式兵器図			何々砲目録	
番号	秘密	名称		
1-2		全体		
3-6	5.6	砲身		
7-9	9	閉鎖機		
10-15	12-15	揺架		
16-25	18-25	駐退機		
属 品				
94		信管廻		
95	95	象限儀		
96	96	砲身覆		
97	97	砲尾覆		
98-100	98-100	属品箱		
101-105	101-105	豫備品箱		
106	106	砲車上被		
枚数合計			(枚数変更の場合、其数ヲ) 106枚 (逐次右方ニ記入スヘシ) 其77枚普通図	

二 級 兵 器 用

陸軍制式兵器図			何々器計 何々機目録	
番号	秘密	名称		
1		全体		
2-8		上架		
9-11		台架		
12-15	14	光源室		
16-20	18.19	標光機		
21-24	23	調整機		
25-30		昇降装置		
31-33		制動機		
属 品				
62-68	65	ガス発生器		
69		油差		
70		漏斗自在スハナ		
71		刷毛注脂器		
枚数合計			(枚数変更の場合、其数ヲ) 71枚 (逐次右方ニ記入スヘシ) 其5枚秘密図	

備考 本目録ハ附圖 3 ノモノノ寸法及備考一、二項ヲ其ノ儘適用ス
但シ同附圖ニ於テ三等分「トアルヲ」二等分「ニ」ス

陸 軍 制 式 兵 器 図		器 材
土 工 器 材 九 一 式 動 力 鑿 井 機 自 動 車 ㊦ 聯 動 機		
91 9	昭和十二年十一月二十五日陸普第2850号制定	葉 番 号 257
	陸 軍 技 術 本 部 印 刷	
120		40
160		國ノ輪郭線

B

昭和十二年十一月二十五日陸普第2850号制定	
昭和二十年十一月二十七日陸普第2946号改正	
陸 軍 技 術 本 部 印 刷	

備考 一、A部ノ寸法ハ名稱記入ノ段數ニ應スルモノトス

二、名稱中其ノ圖案ノ代表トナルヘキモノハ文字ノ大サヲ他ノ名稱ヨリ稍大ニスルモノトス例ヘハ

本例ニ於ケル㊦聯動機トシ

三、制定年月日欄ニ改修正及増改刷ノ年月日番號ヲ記入スル場合ハB欄ノ形式ニ依ルモノトス

組 合 せ 番 號 ノ 記 入 様 式

符 号	名 称	番 号	名 称
イ	砲身	1	鎖栓
ロ	砲口制退機	2	抽筒子
ハ	閉鎖機	3	抽筒子支柱
ニ	揺架匡	4	槓桿
ホ	揺架体	5	拉繩
ヘ	駐退機	6	撃基室塞底

図輪郭線

銘記欄ノ上辺

部品表ノ銘記欄ノ間隙

一 連 番 號 ノ 記 入 様 式

区分名称	番 号	名 称
外 筒	1	体
	2	孔螺
	3	定子
昇 壓 筒	4	体
	5	調氣板
	6	弁
	7	分氣板
	8	集氣板

備考 一、本表ハ圖ノ狀況ニ依リ名稱欄ノ次ニ重量欄、摘要欄等ヲ設クルモノトス(附圖 14 参照)

二、寸法ヲ示サル欄ノ大サハ記入スヘキ記事ノ多寡ニ應シ適宜定ムルモノトス

部 品 表 ノ 寸 法

(表ノ記入例ハ下記兩式共通ノ場合ヲ示ス)

150				
番号及名称	品 質	員 数	摘 要	
5 撃莖ばね	ばね鋼第一号	1		
6 〃ばね頭蓋	硬鋼	1		
7 撃鉄	〃	1		
8 引鉄	〃	1		

図ノ輪郭線

部品表ノ空欄 (通常二三行ノ空欄設置)

部品表ノ銘記欄ノ間隙

銘記欄ノ上辺

組 合 セ 番 號 ノ 記 入 様 式

例 1

区分名称	番号及名称
① 外筒	1 体
	2 孔螺
	3 定子
② 昇壓筒	1 体
	2 調氣板
	3 弁
	4 分氣板
	5 集氣板
③ 底筒	1 接続筒
	2 底螺

例 2

区分名称	番号及名称
① 彈丸	1 体
	2 蓋螺
② 裝藥筒	1 裝藥室
	1 藥莖
	2 藥筒
	2 雷管
	1 体
	2 内管
	3 錫板
	4 発火金
	3 藥莖蓋
	3 裝藥室蓋螺

例 3

全体名称	番号及名称
壓螺分解器	
又形スバナ	
自在スバナ	
ねぎ回	
撃莖拔	
油 罐	1 注入嘴
	2 接続板
	3 口蓋
	1 体
	2 鍵
	3 駐環

一 連 番 號 ノ 記 入 様 式

例 1

区分名称	番号及名称
外筒	1 体
	2 孔螺
	3 定子
昇壓筒	4 体
	5 調氣板
	6 弁
	7 分氣板
	8 集氣板
底筒	9 接続筒
	10 底螺

例 2

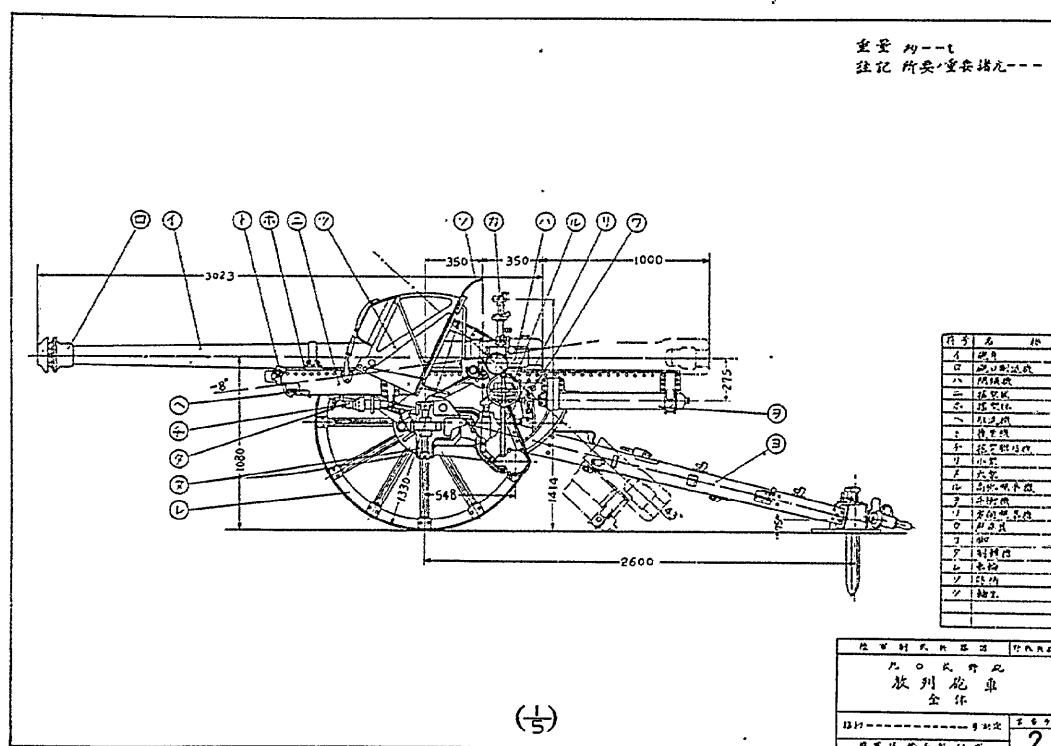
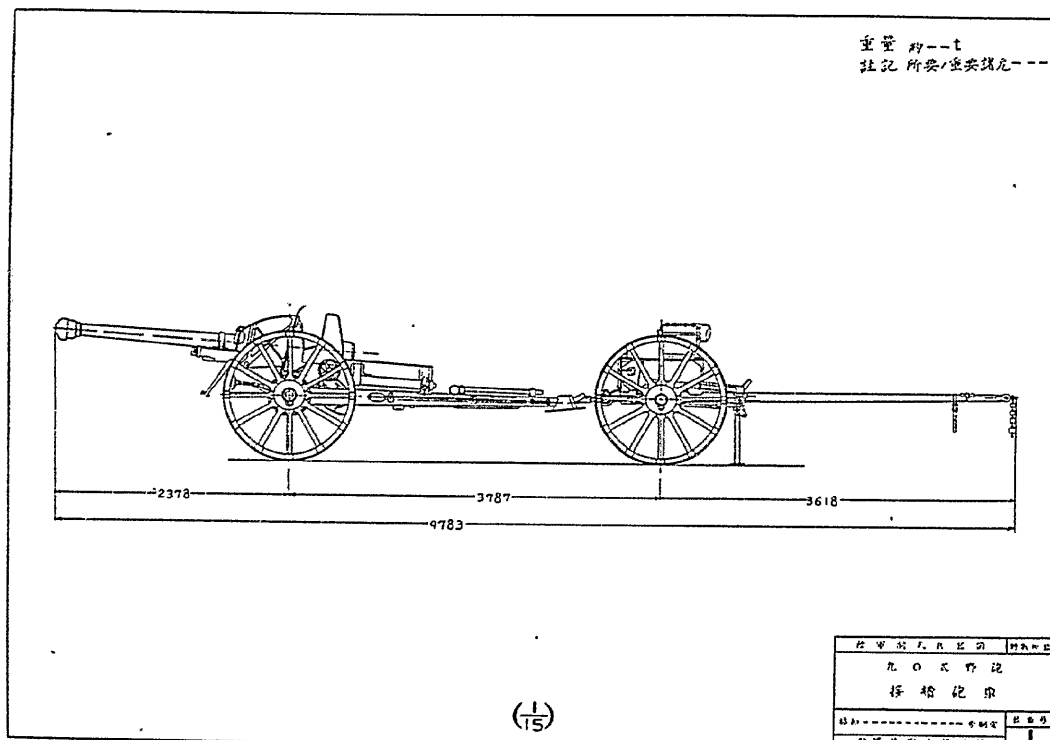
区分名称	番号及名称
彈丸	1 体
	2 蓋螺
裝藥筒	3 裝藥室
	4 藥莖
	5 体
	6 内管
	7 錫板
	8 発火金
	9 藥莖蓋
	10 裝藥室蓋螺

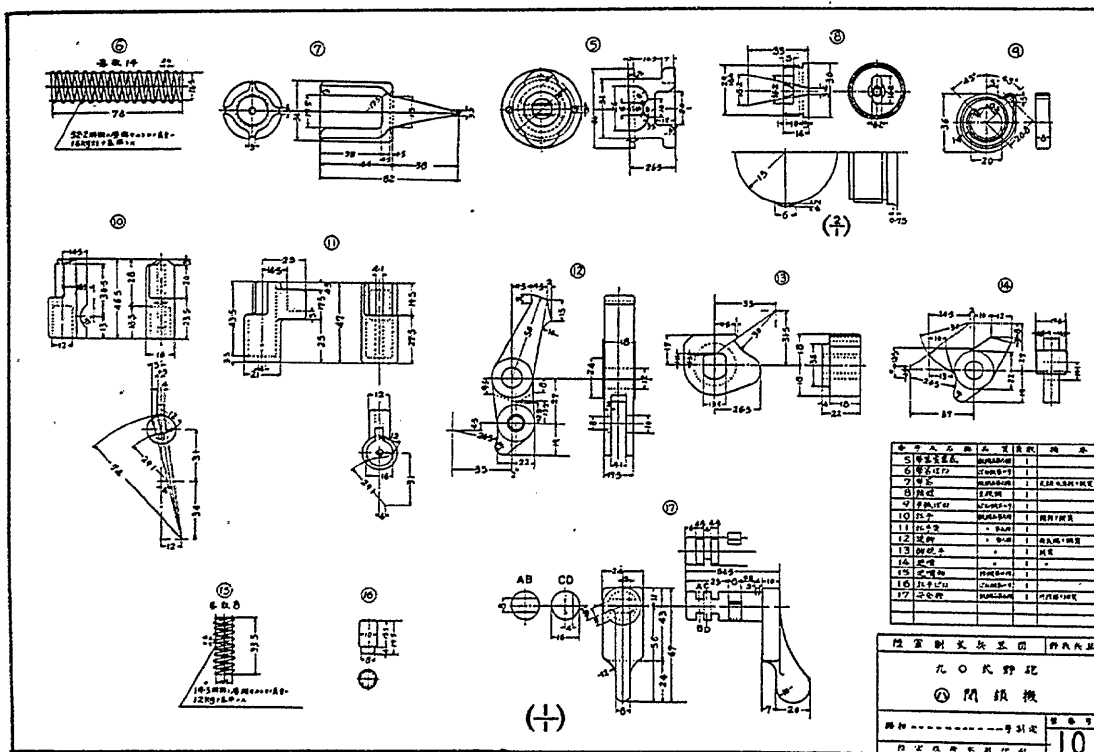
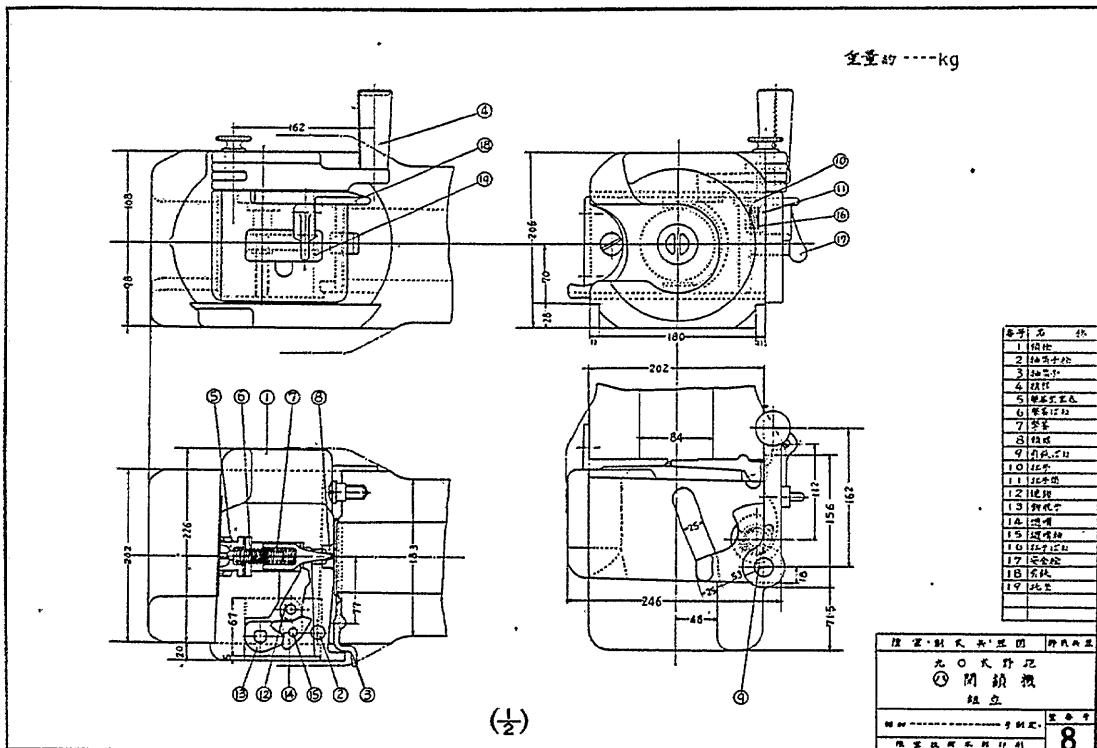
例 3

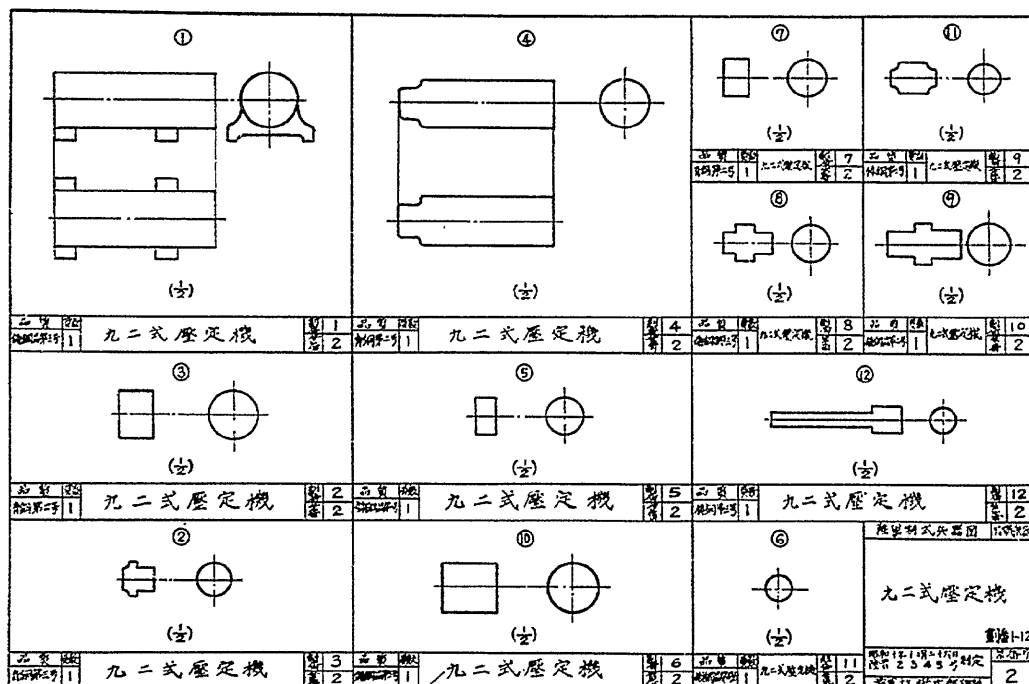
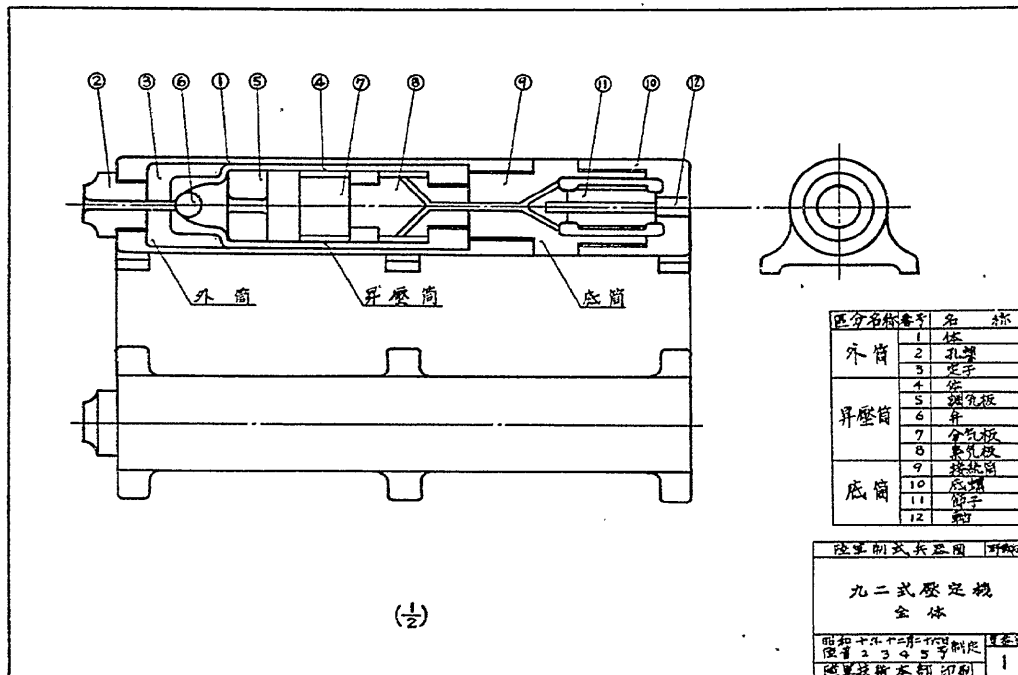
全体名称	番号及名称
壓螺分解器	
又形スバナ	
自在スバナ	
ねぎ回	
撃莖拔	
油 罐	1 注入嘴
	2 接続板
	3 体
	4 鍵
	5 駐環

備考 一。寸法ヲ示ササル欄ノ大サハ記入スヘキ記事ノ多寡ニ應シ適宜定ムルモノトス

二。豫備品ノ員數ハ圖面ニハ示ササルモノトス







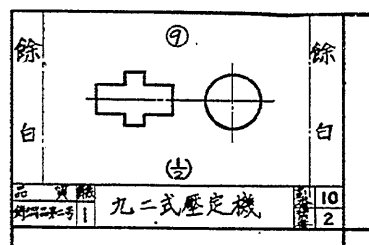
注意 次頁ノ備考参照

劃内ノ兵器名称ハ記号等カハステ之ニ代フルコトヲ得但シ此ノ場合ハ該記号ヲ銘記欄兵器名称ノ下部ニ括弧()ヲ附シテ記入シ置クラ要ス

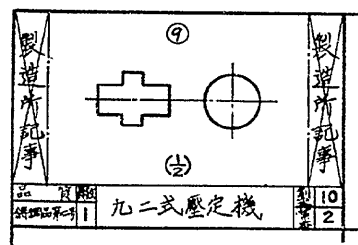
備考

- 一、一品一劃式圖面ノ劃内ハ製造所所要記事ノ掲載ニ關シテノ如ク處置スルモノトス
劃内左右兩側ハ若干ノ餘白ヲ有セシメ製造所ニ於テ所要ノ記事ヲ記入シ得ル如クスルモノトス(第1圖參照)
製造所調製ノ圖ヲ其ノ儘兵器圖ニ採用シ且ツ之レヲ印刷又ハ寫眞原圖トシテ使用スル場合ハ次ノ要領ニ依ル
イ、寫眞ヲ以テスル兵器圖ニ在リテハ製造所ノ記事ヲ×ニテ抹消シ用ユ(第2圖參照)
ロ、印刷圖ヲ以テスル兵器圖ノ場合ハ前項×部ヲ削除ス但シ削除ハ印刷作業ニ於テ行フモノトス

第 1 圖



第 2 圖

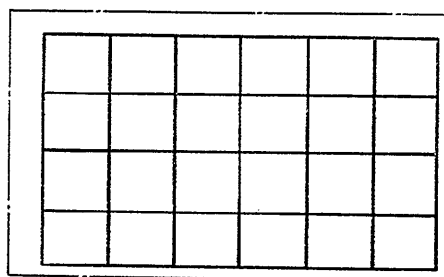


- 二、一品一劃式ノ圖示法ヲ以テスル兵器圖ノ圖紙ハA列1番及2番圖紙ニ限ルモノトス 但シ改修正圖ノモノハ一般ノモノト同様トス又區劃ノ數ハ下記ノ如シ

區 劃 ノ 數

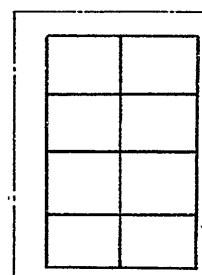
A 列 1 番 圖 紙

横 6 縦 4 等分



A 列 2 番 圖 紙

横 2 縦 4 等分



- 三、銘記欄ノ大サハ一般ノ圖ノモノニ依ラス各圖紙ノ一劃ヲ以テ大サトスルモノトス

- 四、部品組成ノ表ハシ方ハ次ノ要領ニ依ル

- イ、區分名稱ニハ符號ヲ用ヒス名稱ノミヲ以テ其ノ組成ヲ表ハス(圖面參照)
- ロ、一兵器又ハ一結構ノ部品ハ一連番號トシ①②③等ノ一種ノ番號ヲ用フ(圖面參照)
- ハ、部品表ノ部品記入形式ハ組成ヲ示スニ不都合ヲ生セサル限り必スシモ番號順ナルヲ要セス

符 號 及 番 號 ノ 種 類

用 途 區 分		種 類		
區 分 名 稱 用	主 用	① _φ	②	③ -----
	内 訳 用	⑤ _φ	⑩	②⑤ -----
部 品 名 稱 用	親 番	⑤ _φ	⑩	②⑤ -----
	子 番	⑤ _φ	⑩	②⑤ -----
	内訳子番	⑤ _φ	⑩	②⑤ -----

備考 銘記欄内ニ記入スル符號及番號ノ大サハ其ノ名稱ノ字大ニ準スルモノトス

總括的ノモノノ例

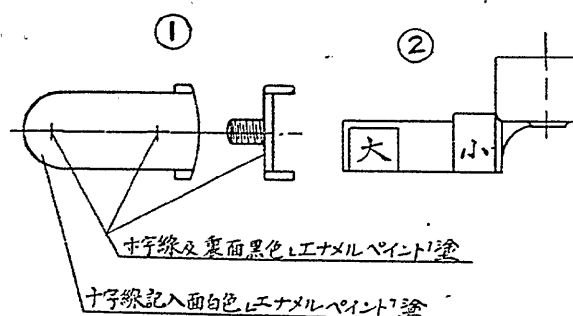
重 量 約 50kg
 註 記 本器ハ組立後摩擦部ヲ除キ外面茶褐色塗トス

重 量 總 量 約85kg

内 譯 量 { 主 體 約52kg
 屬 品 約33kg

註 記 1. 本器ハ外面茶褐色塗トス
 2. 圖中㊦㊧ハ……………
 3. ……………

部分的ノモノノ例

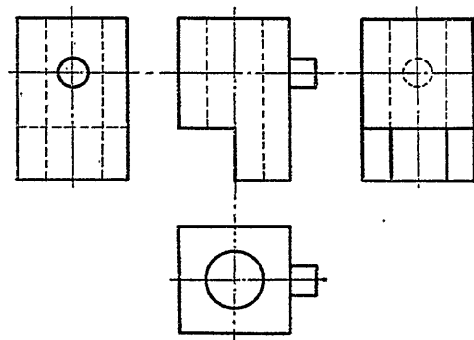


符号	名 称	重量(約)
イ	砲身	6.280
ロ	閉鎖機	0.247
ハ	搖架	2.380
ニ	砲架	1.420
ホ	架匡	3.170
ヘ	防楯	0.885

番号及名称	品 質	頁数	摘 要
1 照尺	黄銅	1	重量約500g
2 点滅盤	青銅	1	金色セシウムアクリル塗料を以て白く塗る

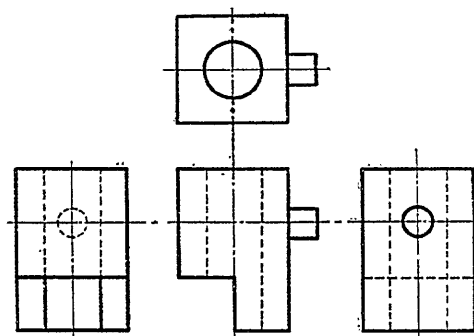
第 1 圖

第 一 角 法



第 2 圖

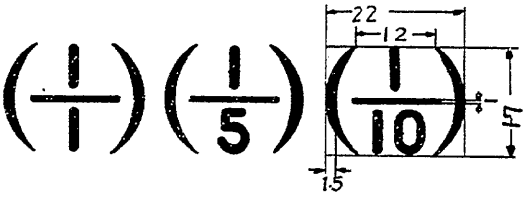
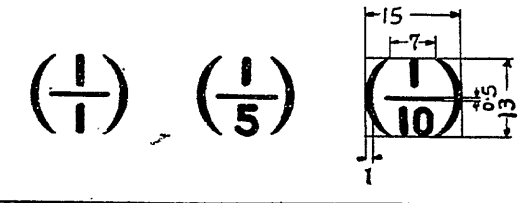
第 三 角 法



備 考

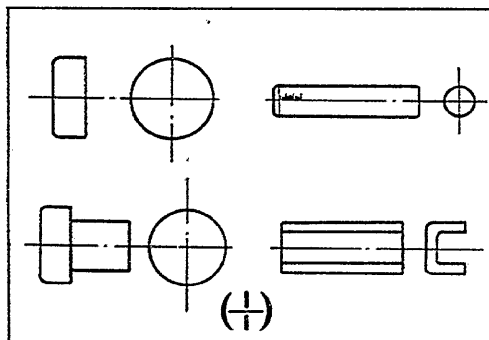
- 一、一兵器ノ圖ニ於テ各藥共第三角法ヲ用キタル場合ニハ其ノ初葉ニ（本圖ハ第三角法ニ依リ描
畫ス）ト註記ス
- 二、一兵器ノ圖ニ於テ兩方式ヲ混用シタル場合ニハ第三角法ヲ用キタル圖ノ上部ニ（第三角法）ト
註記ス

尺度表示用數字ノ大サ

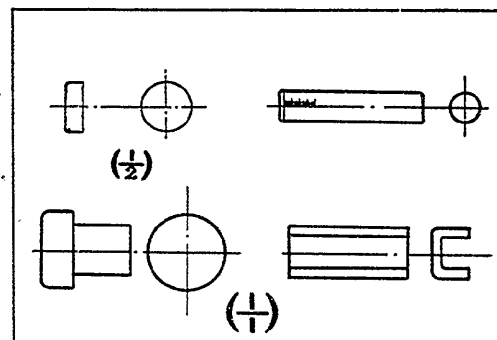
	區 分	備 考
大		数字ハ 7 mm (附圖19参照)
小		数字ハ 5 mm (附圖19参照)

尺度ノ記入位置

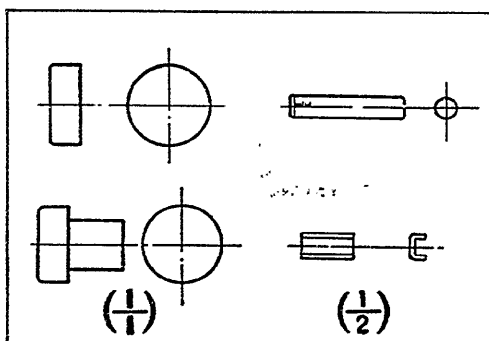
第 1 例



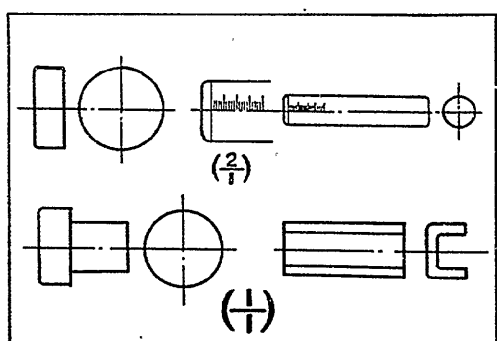
第 3 例



第 2 例



第 4 例



六号 2mm
五号 3
四号 4
三号 5
二号 7
一号 10
初号 14

四 五 号 図 数
四 五 号 図 数
四 五 号 図 数
四 五 号 図 数

四 五 号 図 数

四 五 号 図 数

四 五 号 図 数

六号 2
五号 3
四号 4
三号 5
二号 7
一号 10
初号 14
特号 20

ア イ ウ エ オ
カ キ ク ケ コ
サ シ ス セ ソ
タ チ ツ テ ト
ナ ニ ヌ ネ ノ

ハ ヒ フ ヘ ホ

マ ミ ム メ モ

ヤ イ ュ エ ヨ

mm					
2					
3		A	B	C	D
4		D	E	F	G
5		G	H	I	J
7		J	K	L	M
10		M	N	O	P
14		P	Q	R	S
20		S	T	U	V
		V	W	X	Y
		W	X	Y	Z
2					
3		a	b	c	d
4		d	e	f	g
5		g	h	i	j
7		j	k	l	m
10		m	n	o	p
14		p	q	r	s
20		s	t	u	v
		t	u	v	w
		v	w	x	y
		w	x	y	z

mm

2

1 2 3 4 5

3

6 7 8 9 0

4

1 2 3 4 5

5

6 7 8 9 0

7

1 2 3 4 5

10

6 7 8 9 0

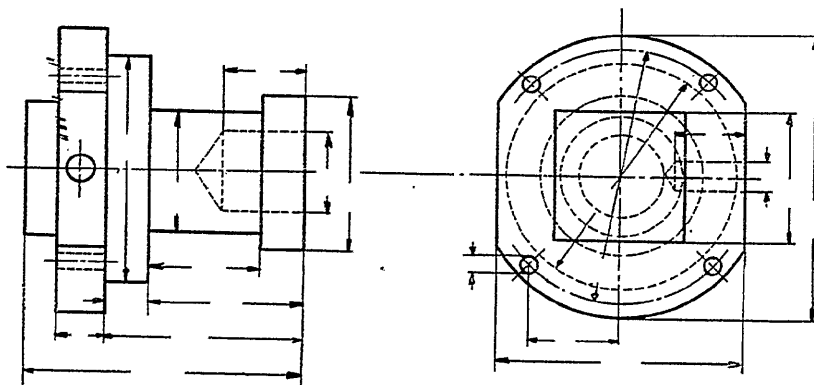
14

1 2 3 4 5

20

6 7 8 9 0

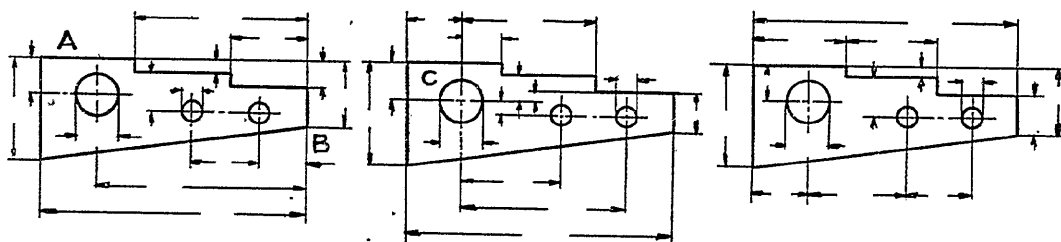
第 1 圖



第 2 圖

第 3 圖

第 4 圖



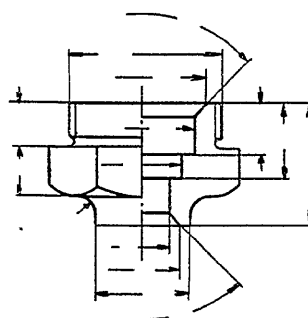
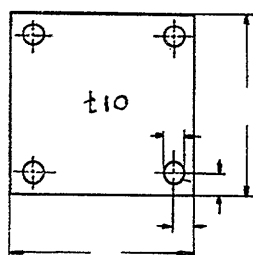
A及Bヲ基準トス

孔Cノ中心線ヲ基準トス

特ニ基準トスヘキ箇所ナキトキ

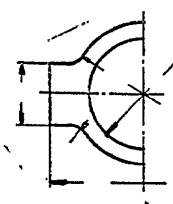
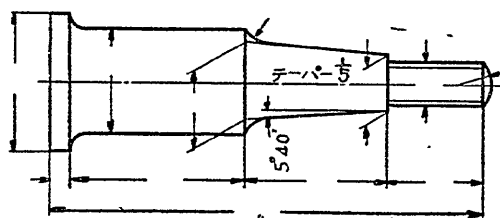
第 5 圖

第 6 圖

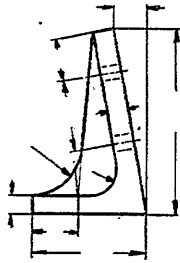


第 7 圖

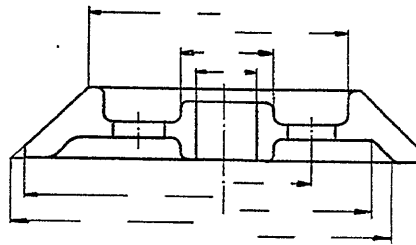
第 8 圖



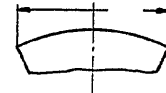
第 14 圖



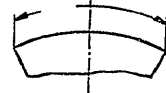
第 15 圖



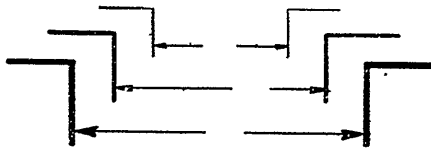
第 16 圖



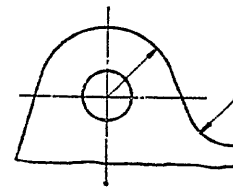
第 17 圖



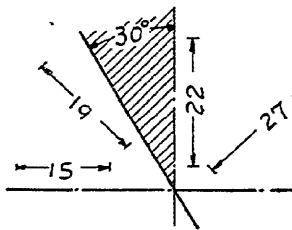
第 18 圖



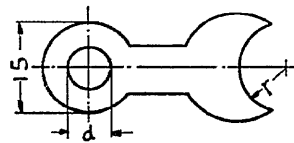
第 19 圖



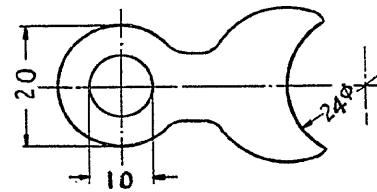
第 20 圖



第 21 圖

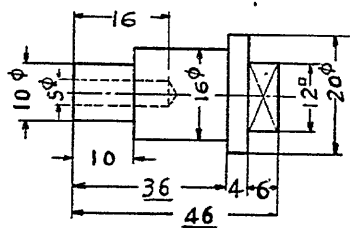


第 22 圖

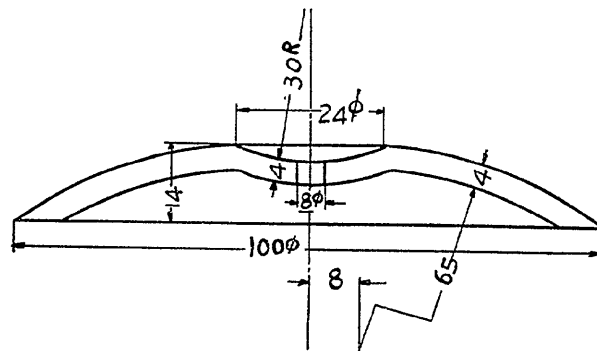


部品番號	1	7
r	20	24
d	8	10

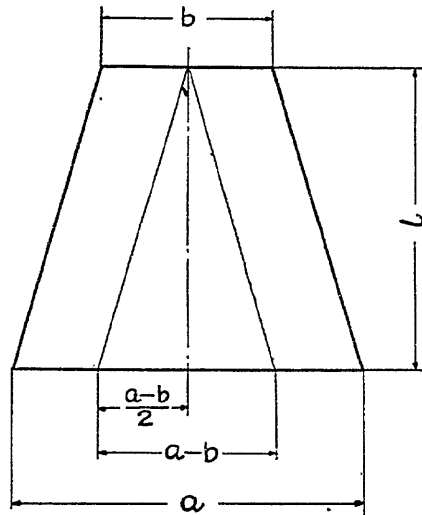
第 23 圖



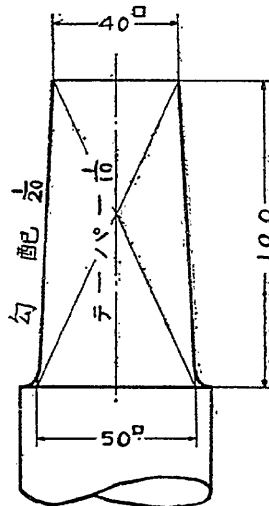
第 24 圖



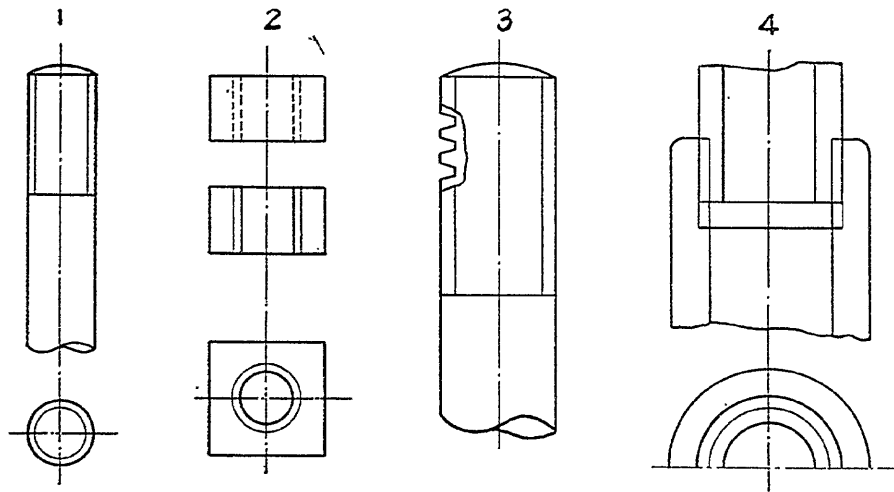
テーパー及勾配ノ説明圖



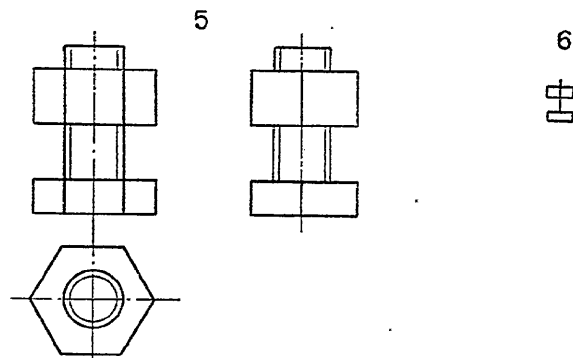
記入例



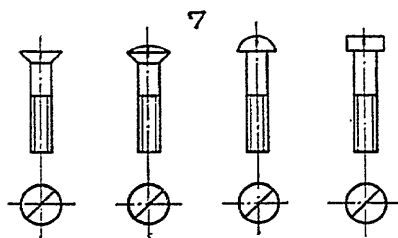
をねぢ及めねぢ



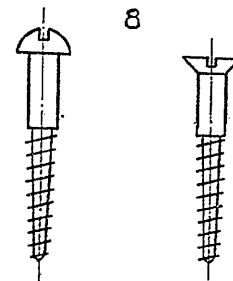
ボルト及ナット



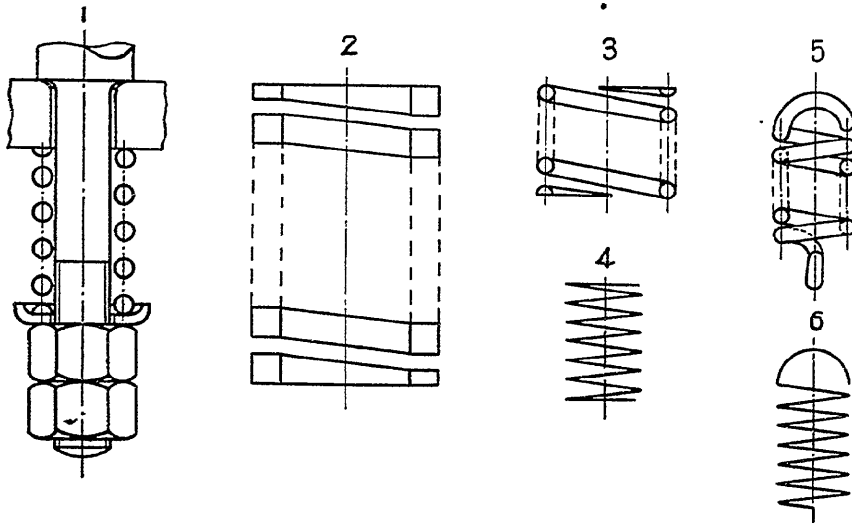
小ねぢ



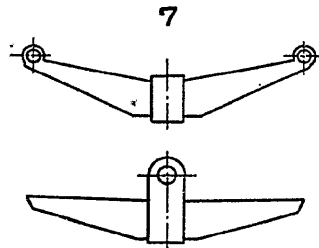
木ねぢ



蔓 卷 ば ね



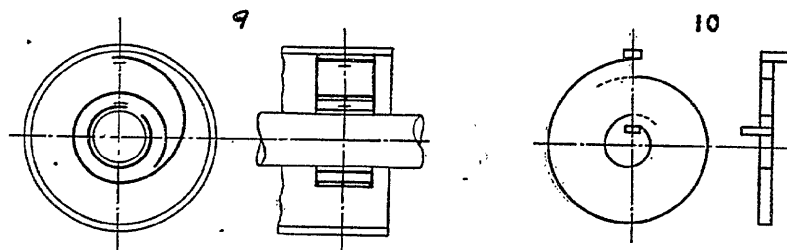
重 ね ば ね

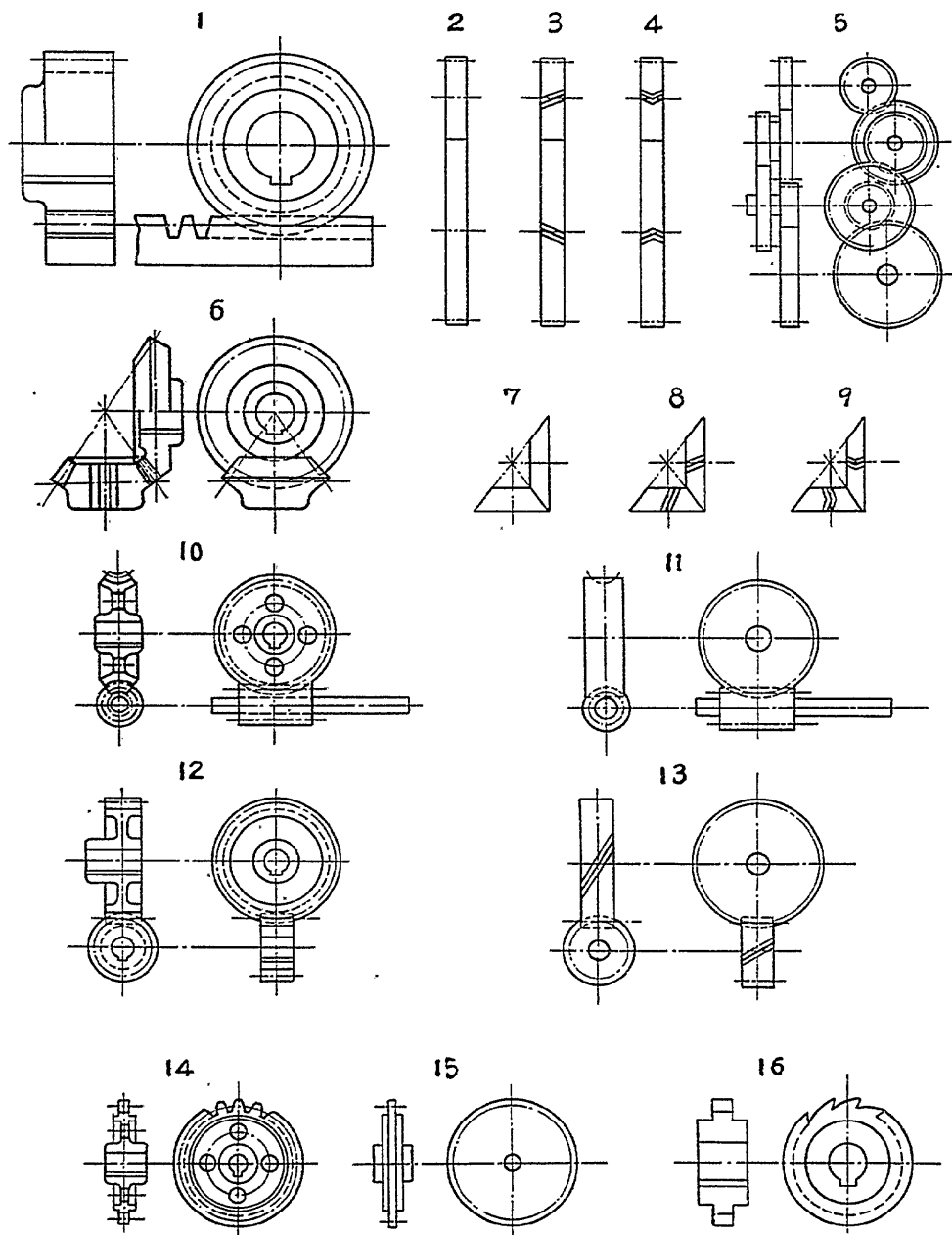


竹の子ばね



渦 卷 ば ね

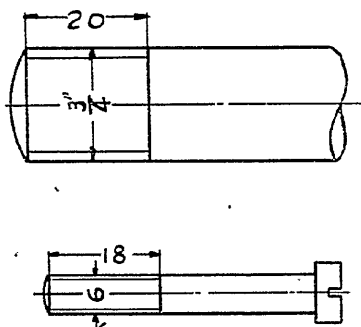




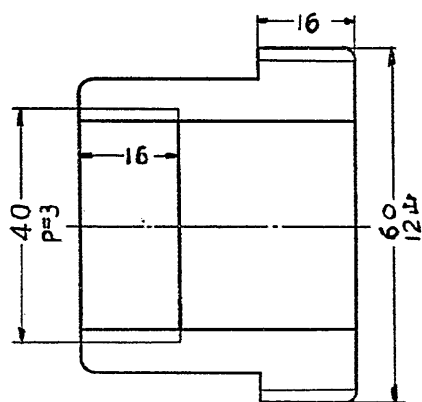
種 別		丸 銃	皿 銃			平 銃		
			表ノ皿ナル 場合	裏ノ皿ナル 場合		表ノ平ナル 場合	裏ノ平ナル 場合	
略 図	工場銃							
	現場銃							

備考 本略図ハ主トシテ鉄骨構造ニ適用スルモノトス

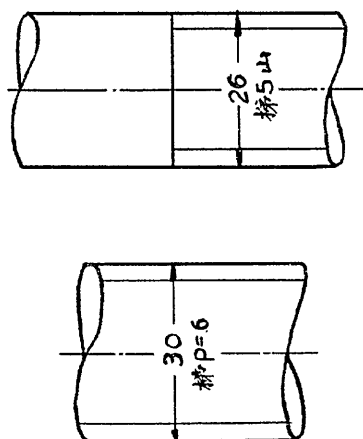
第 1 圖



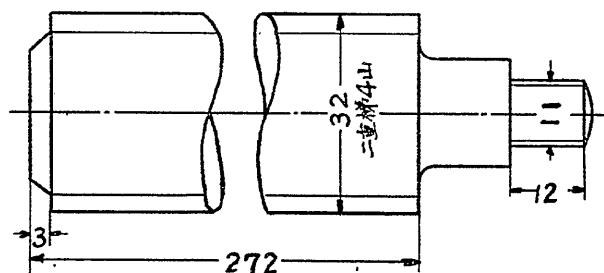
第 2 圖



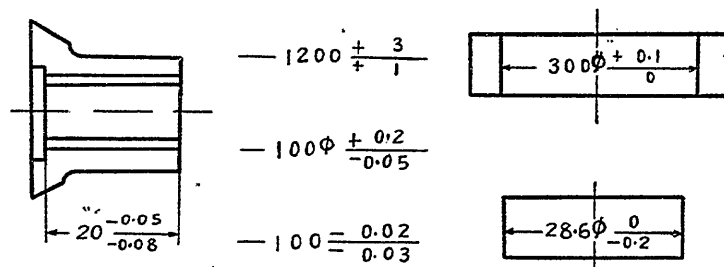
第 3 圖



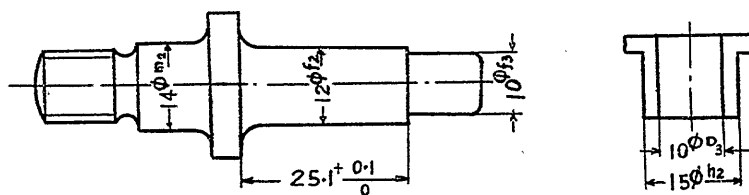
第 4 圖



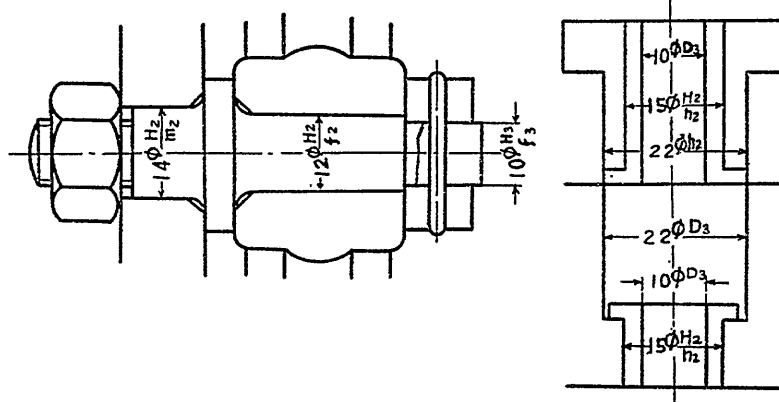
第 1 圖

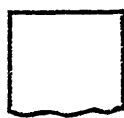
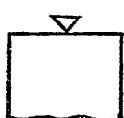
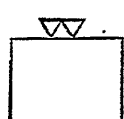
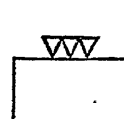


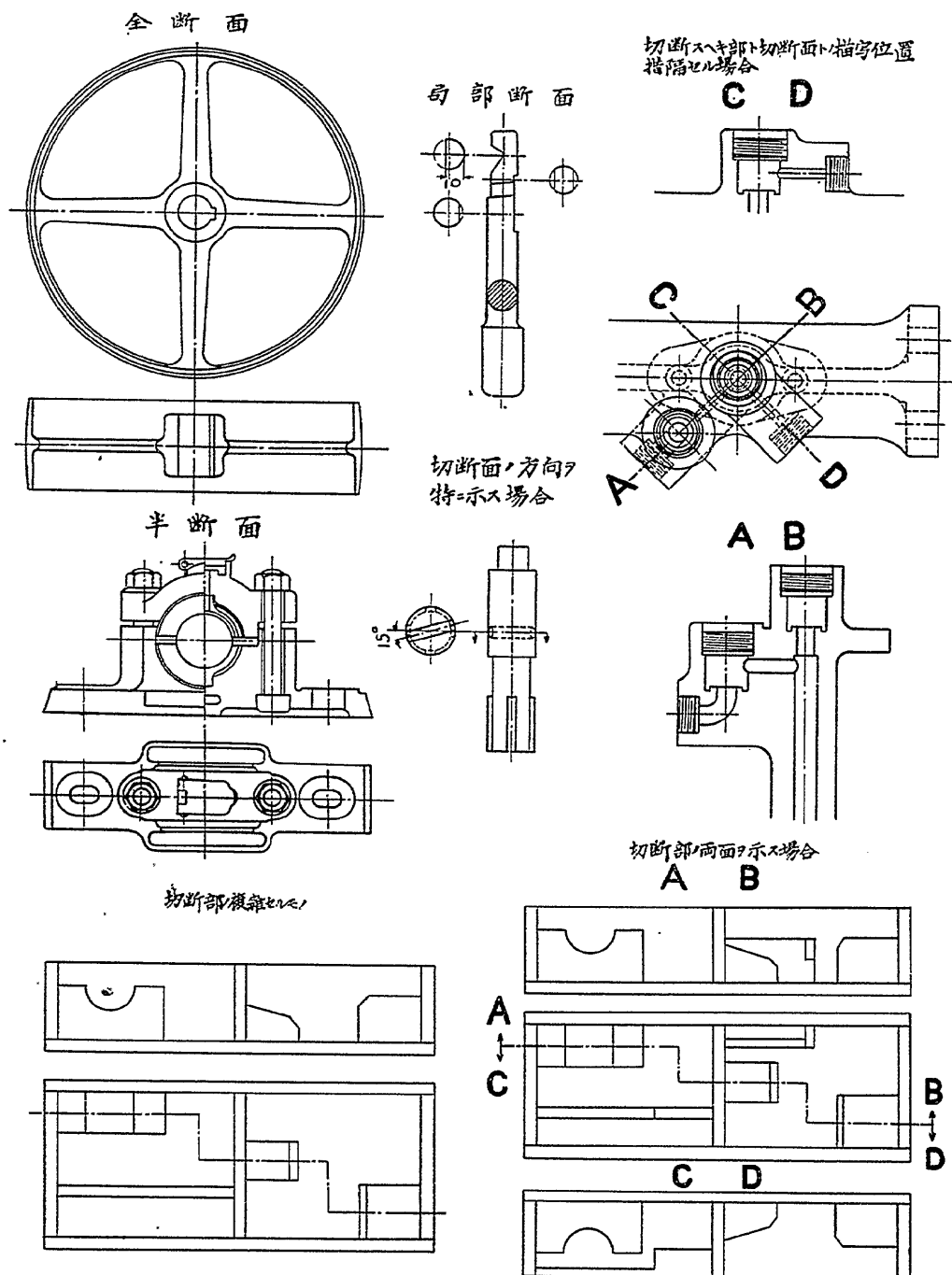
第 2 圖



第 3 圖



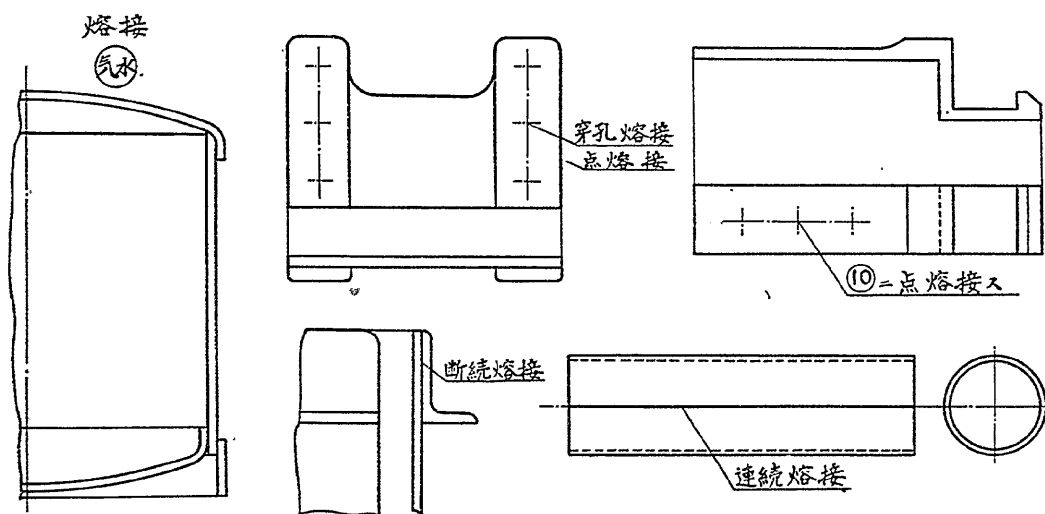
仕上面ノ記號	仕上ノ程度	仕上代 ノ要否	加 工 法	適 用 例
 (無 記 號)	生地ノママ	否	鑄造、壓延、鍛造 等ノママ	-----
 (波 形)	滑ナル生地	否	生地滑ナルトキハ 其ノママ又必要アル 場合ハ黒皮ノ殘 ル程度ノ簡單ナル 仕上	「ハンドホイール」 ノ輪、鑄造「フラ ンジ」ノ側面、「ス バナ」ノ柄、黒皮 「ボルト」及「ナツ ト」ノ當リ面等
 (1箇ノ三角形)	荒 仕 上	要	鋳仕上、平削、「タ ーニング」又ハ研 磨	更ニ上級仕上ヲ爲 スヘキ部分、「ピス トンリング」ノ内 面、軸ノ端面等
 (2箇ノ三角形)	並 仕 上	要	鋳仕上、平削、「ミ リング」、「ターニ ング」又ハ研磨	軸又ハ桿ノ他ノ部 品ト接觸セサル 面、「クランク」ノ 側面等
 (3箇ノ三角形)	上 仕 上	要	鋳仕上、平削、「ミ リング」、「ターニ ング」、研磨又ハ琢 磨	「シリング」ノ内 面、軸承ノ滑動面、 工作機械ノ走リ 面、「ゲージ」ノ測 定面等



- 備 考 一、切断關係ヲ容易ニ判讀シ得ルモノハ切断線及断面符號ヲ省略ス
- 二、断面符號ノ大サハ 3mm. 5mm. 7mm (附圖19) ノ 3 種トシ之ヲ圖ノ大サニ應スル如ク適
用スルモノトス

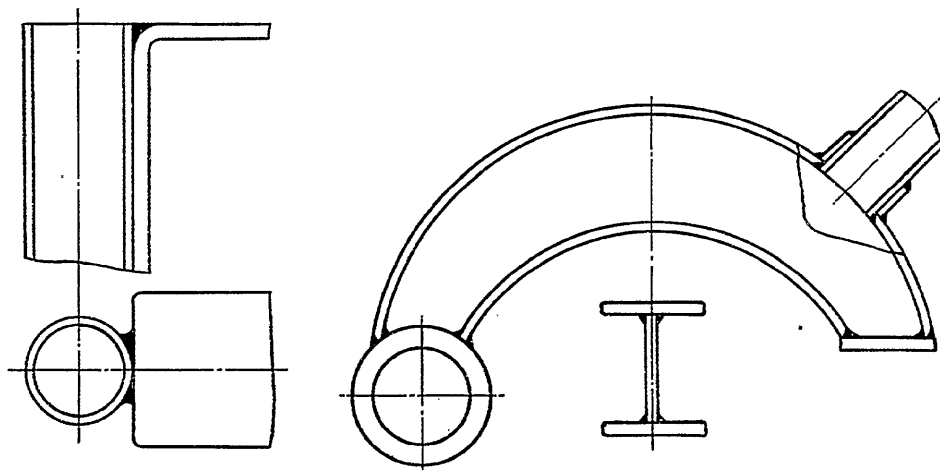
熔 接 法 ノ 註 記

區 分	摘 要
連 續 熔 接	熔接線全線ニ亙リ一様ニ熔接スルモノ 特ニ水密ヲ必要トスルモノハ(漏止)、氣水密ヲ必要トスルモノハ(氣水)、眞空ヲ必要トスルモノハ(眞空)ト註記ス
断 續 熔 接	熔接線全長ニ亙リ熔接スル要ナキモノ
穿 孔 熔 接	重ね合シタル板ノ一方ニ孔ヲ開ケ其ノ孔ヲ熔接シテ補強又ハ鏝ノ代用トスルモノ
點 熔 接	點式ニ熔接スルモノ
備 考	1. 詳細ナル熔接部位、方法ヲ指定スルコトナク製造所ニ於テ適宜ニ實施スヘキモノニ在リテハ熔接ト註記ス 2. 電気熔接、ガス熔接等ノ區別ヲ特ニ指示スル必要アルモノハ其ノ旨註記ヲ爲スモノトス



特別ナル盛金圖示ノ一例

(註記ノ記入法ハ上記ニ同シ)

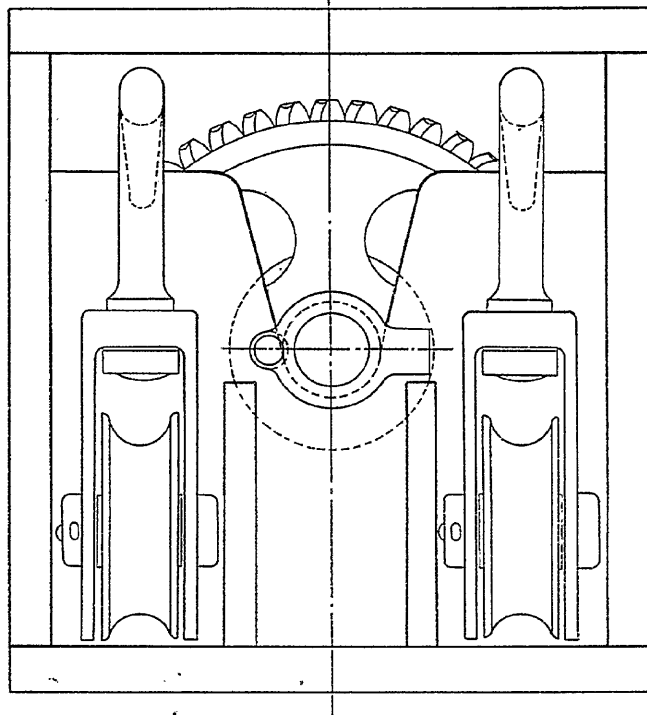


種類	單位	記号	種類	單位	記号
長	ミクロン	μ	時間	時	時 h
	ミリメートル	毫米 mm		分	分 min
	センチメートル	厘米 cm		秒	秒 s
	メートル	米 m	速度	毎時キロメートル	時速 km/h
	キロメートル	千米 km		毎秒メートル	米/秒 m/s
容 量	ミリリットル	ミリ升 ml	温度(摂氏)	度	度 °C
	デシリットル	デシ升 dl	角 度	度	度 °
	リットル	立 升 l		分	分 '
	ヘクトリットル	百 升 hl		秒	秒 "
	キロリットル	千 升 kl		密位	ミ ヴ
重 量	ミリグラム	ミリ 瓦 mg	電 気 単 位	ミリヴォルト	mV
	グラム	瓦 g		ヴォルト	V
	キログラム	千 瓦 kg		ミリアムペア	mA
	トン	吨 t		アムペア	A
面 積	平方ミリメートル	平方毫米 mm ²		メガオーム	MΩ
	平方センチメートル	平方厘米 cm ²		オーム	Ω
	平方メートル	平方 米 m ²		ミリヘンリー	mH
	平方キロメートル	平方 千米 km ²		ヘンリー	H
体 積	立方ミリメートル	立方毫米 mm ³		ワット	W
	立方センチメートル	立方厘米 cm ³		キロワット	kW
	立方メートル	立方 米 m ³		キロヴォルトアムペア	kVA
仕事量	馬力	HP		アムペアアワー	Ah
	キロワット	kW		マイクロアラッド	μF
圧 力	毎平方センチメートルキログラム	毎/平方 瓦 kg/cm ²		マイクロマイクロアラッド	μμF
	毎平方メートルキログラム	毎/平方 米 kg/m ²			
	気圧	気 atm			

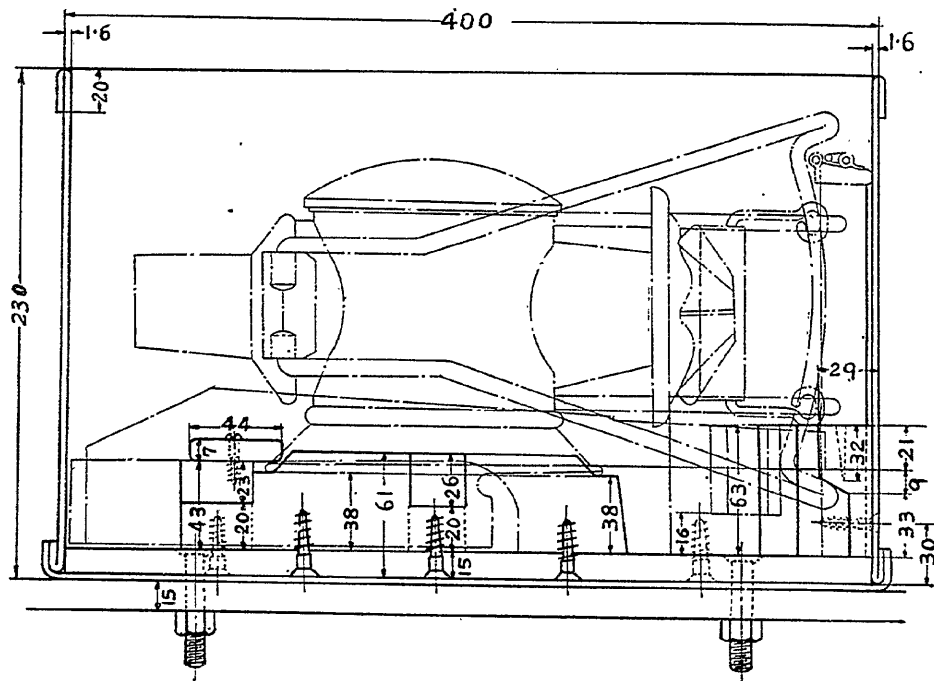
記 入 例

寸法線ヲ用ケルモノ	其	他
	2 5 km	15° 35' 40"
1 0 0 0	2.5 m	
2 3 6 4	6 5 cm	1 0 0 V
5 3 0	8.5 mm	5 A
5 3 2.5	3 8 t	3 mA
1 0	2 0 kg	3 0 H
7.2 5	4.5 g	6 0 W
花	3 0 kL	5 0 0 kW
	2 5 L	8 0 Ah
	3.2 mL	0.5 μ F
	5 4 kg/cm ²	5 3 2 kVA
	5 0 atm	6 M Ω
	1 2 5 HP	十 糧加農
	3 2 °C	十 米 卷 尺
	-1 0 °C	五 百 瓩 秤
		一 瓩 引 上 滑 車
備考 小数位ハポインド(・) ヲ用ク	備考 一、数値ヲ單獨ニ表示スル場合ニハ其ノ判読ヲ容易 ナラシムル如ク單位ヲ撰定スルモノトス 例ハ 12300 mmヲ12.3 mト為スカ如シ 二、同種類ノ数値ヲ列 記スル場合ニハ成ル ヘク同一單位ト為シ 例 記入スルモノトス	体 25.00 kg 支 桿 0.50 " 軸 0.25 " 指 針 0.15 "

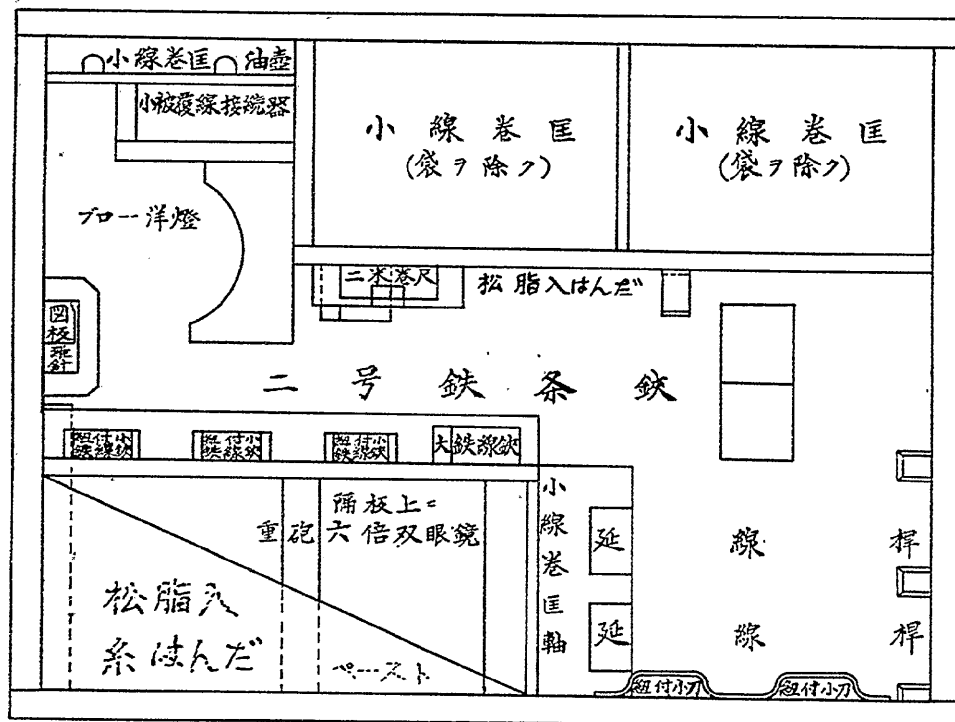
一 般 ノ モ ノ ノ 例



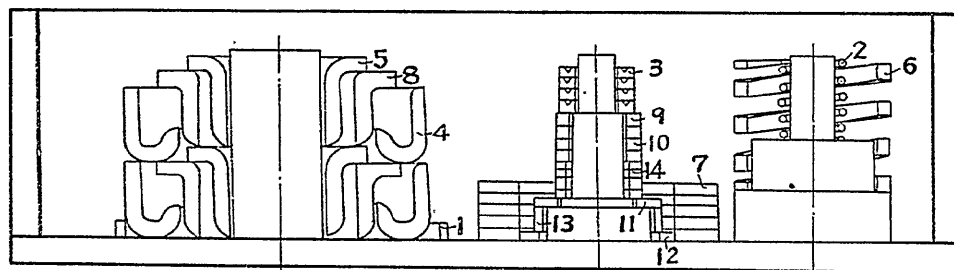
特ニ装填圖ヲ設ケス容器ノ圖面ト兼用セルモノノ例



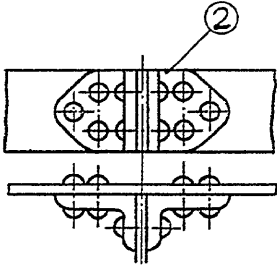
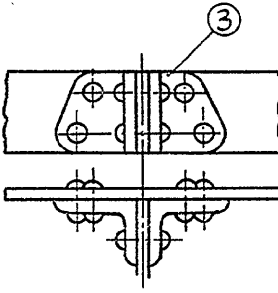
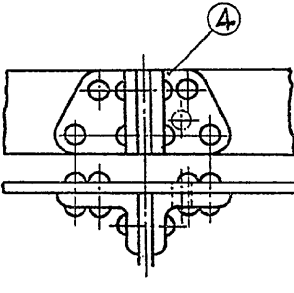
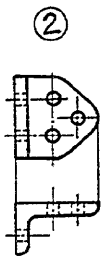
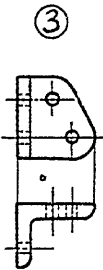
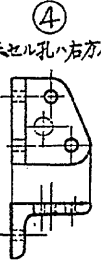
名 稱 = 依 ル モ ノ ノ 例

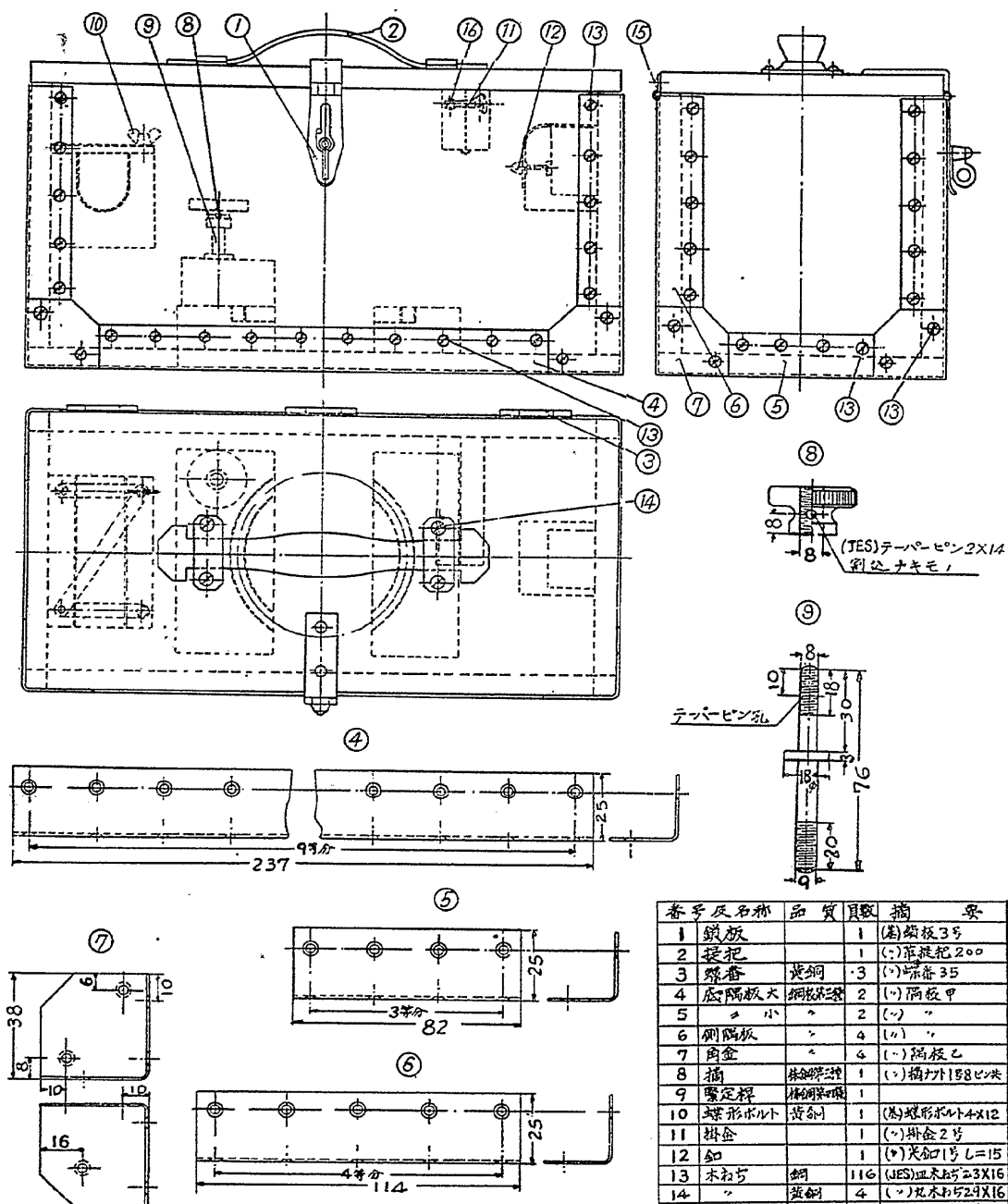


番 號 フ 附 セ ル モ ノ ノ 例



番号	頁数	名 称	番号	頁数	名 称
1	1	駐退管坐環	8	2	ピストン棒革筒
2	1	駐退管頭蓋板ばね	9	2	注液弁注液孔用坐環
3	4	注気及注液弁用緊塞革	10	2	注液ポンプ用緊塞環用坐環
4	2	ピストン頭緊塞革	11	1	後坐弁坐環 小
5	2	ピストン頭革筒	12	1	後坐弁坐環 大
6	1	ピストン弁ばね	13	1	空気罐隔板弁塞螺坐環
7	5	ピストン棒革環	14	4	注気及注液弁用坐環

区分	第 1	第 2	第 3																																										
装 著 図																																													
分 解 図	②  <table border="1" data-bbox="373 1285 649 1352"> <tr> <th>番号</th> <th>名称</th> <th>品</th> <th>質</th> <th>数</th> <th>摘</th> <th>要</th> </tr> <tr> <td>2</td> <td>隔板</td> <td>鋼板</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	名称	品	質	数	摘	要	2	隔板	鋼板	2				③  <table border="1" data-bbox="692 1285 968 1352"> <tr> <th>番号</th> <th>名称</th> <th>品</th> <th>質</th> <th>数</th> <th>摘</th> <th>要</th> </tr> <tr> <td>3</td> <td>隔板</td> <td>鋼板</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	名称	品	質	数	摘	要	3	隔板	鋼板	2				④ 鎖線ニテ示セル孔ハ右方ノモノニモ穿ツ  <table border="1" data-bbox="1011 1285 1286 1352"> <tr> <th>番号</th> <th>名称</th> <th>品</th> <th>質</th> <th>数</th> <th>摘</th> <th>要</th> </tr> <tr> <td>4</td> <td>隔板</td> <td>鋼板</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	名称	品	質	数	摘	要	4	隔板	鋼板	2			
番号	名称	品	質	数	摘	要																																							
2	隔板	鋼板	2																																										
番号	名称	品	質	数	摘	要																																							
3	隔板	鋼板	2																																										
番号	名称	品	質	数	摘	要																																							
4	隔板	鋼板	2																																										
備 考	左右方ノ部品同形ナルトキハ分解図ハ單ニ一方ノ方ヲ図示シ 2 ト員数ヲ記入ス	左右方ノ部品互ニ形狀正反對ナルトキハ分解図ハ單ニ一方ノ方ヲ示シ左右各 1 ト員数ヲ記入ス	左右方ノ部品互ニ異ナル簡單ナル箇所アリタル場合ハ分解図ハ一方ノ方ヲ示シ員数ハ左右各 1 ト記入ス 尚本例圖ノ如キ註記ヲ附ス																																										



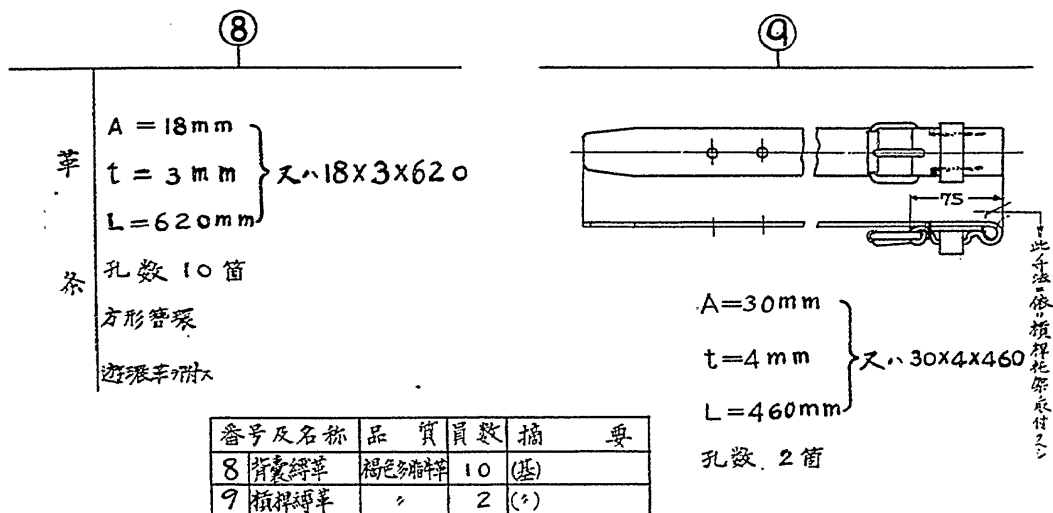
注意 本例圖ノ分解圖ハ日本標準規格及基本圖ニ關係スル部品ニシテ他ノ部品ノ分解圖ハ圖面ノ輻輳ヲ避クル爲圖示ヲ省略セルモノトス

附圖

基本圖ヲ其ノママ應用シ得ルモノノ圖示 [革條及革條ニ附隨スル環類
ノ基本圖ト同一寸法ノモノ]

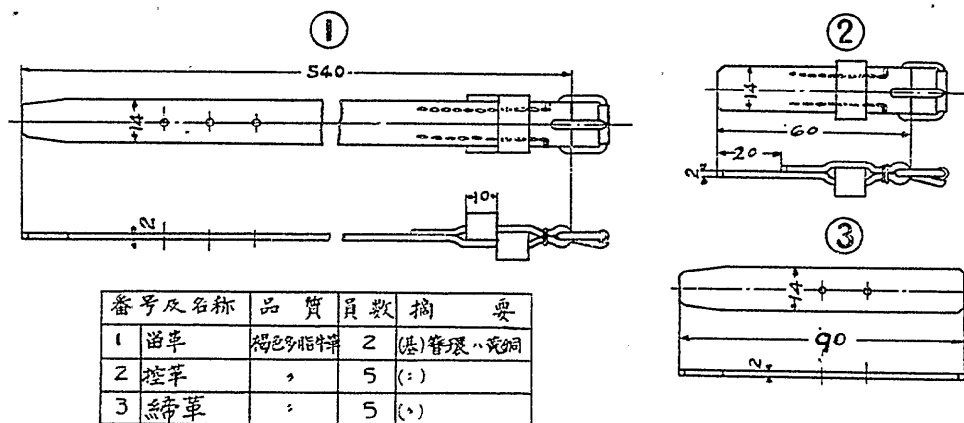
(1) 圖ヲ省略シ得ルモノ

(2) 圖ヲ省略シ得サルモノ

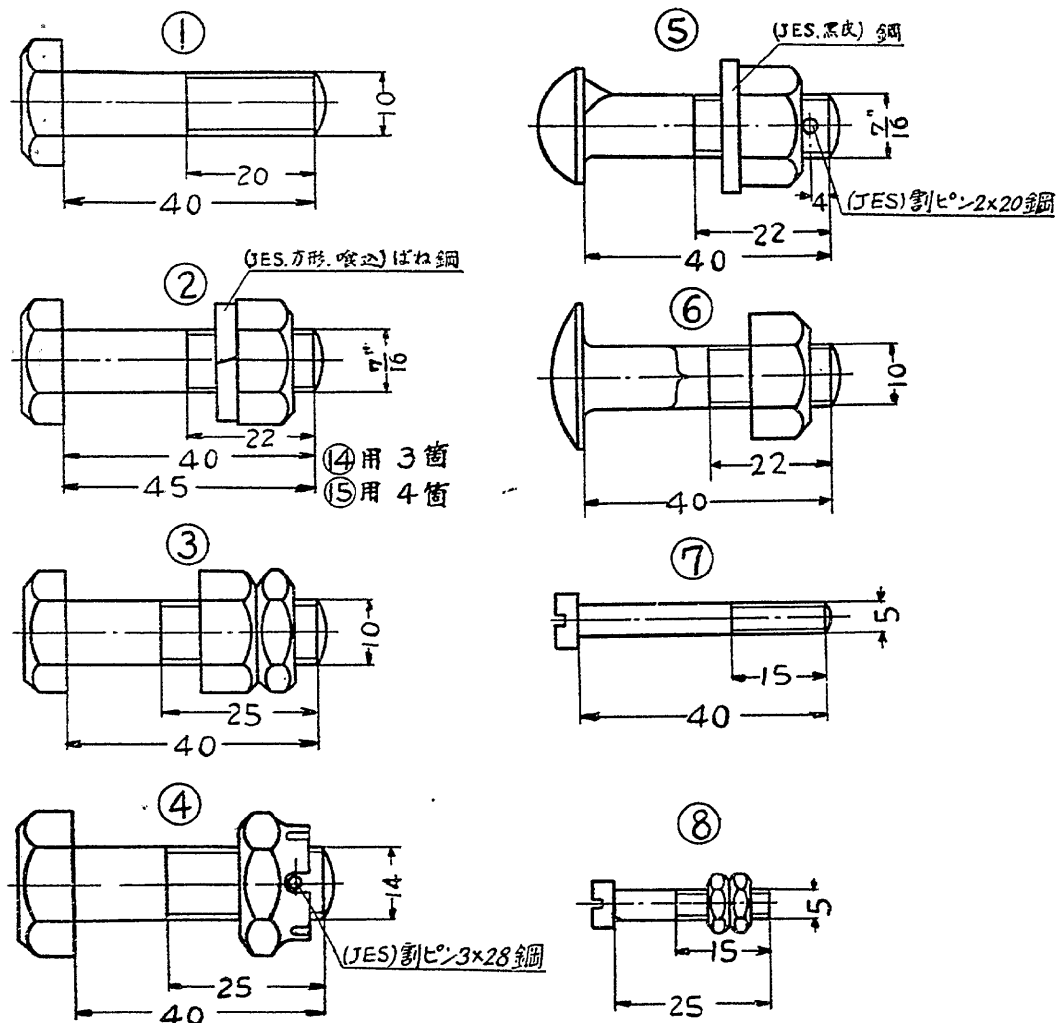


基本圖ヲ其ノママ應用シ得サルモノノ圖示 [或ル部分カ革條及革條ニ附隨スル
環類ノ基本圖ト同一寸法ノモノ]

注意 基本圖ト同一ナル部ハ幅以外ノ寸法及註記ヲ省略ス



備考 長 1m 以上ノ革條ニシテ特ニ使用上接合セル革ヲ不可トスルモノノ場合ハ長ノ寸法ノ傍
ニ「接合セス」ト註記スルモノトス

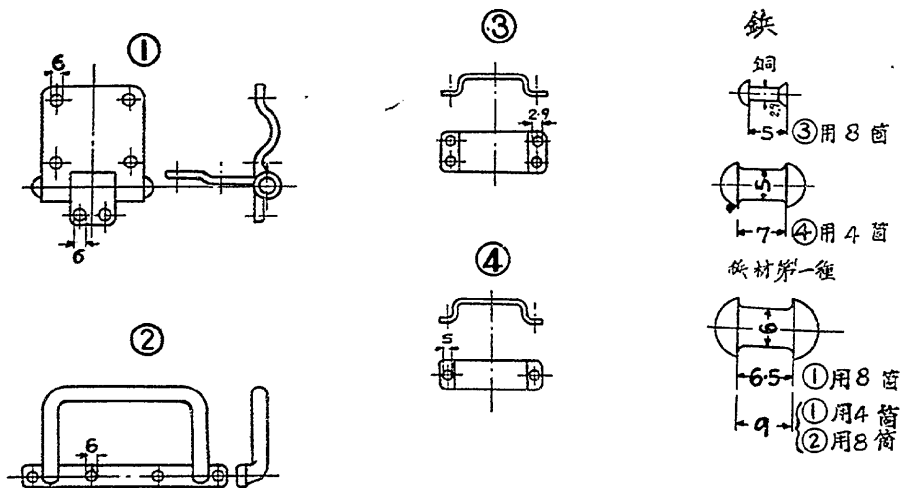


番 号	及 名 称	品 質	員 数	摘 要
1	ボルト	棒鋼第三種	1	(JES 磨)
2	取付ボルト	〃 第四種		(JES. 平仕上) ナット, ばね座金共
3	歯車室ボルト	〃 第三種	2	(JES. 細目磨) ナット, 止ナット共
4	クランク室ボルト	〃 第五種	1	(JES. 細目磨) 溝付ナット, 割ピン共
5	凸形板ボルト	〃 第三種	5	(JES. 基. 黒皮) ナット, 座金, 割ピン共
6	踏板ボルト	〃	1	(JES. 基. 粗仕) ナット共
7	壓板ねじ	〃	1	(JES. 小ねじ)
8	連桿軸	〃	1	(JES. 小ねじ) 止ナット共

備考 一、〔ボルト〕類ノ用途ヲ示ス部品番號ハ被結合部品ノ番號トス

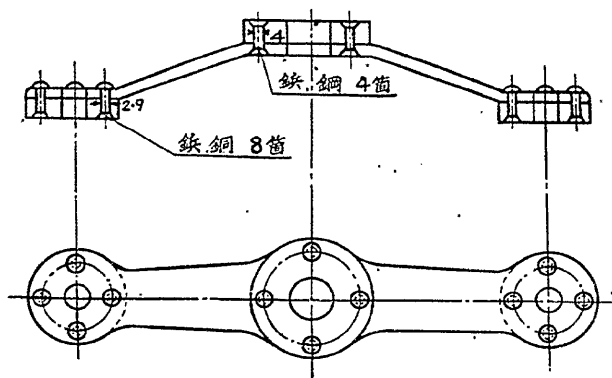
二、規格類ノ標記ニシテ摘要欄ニ記入ノ餘地ナキトキハ圖ノ所要部ニ適宜記入スルモノトス

分解セル鋌ノ場合



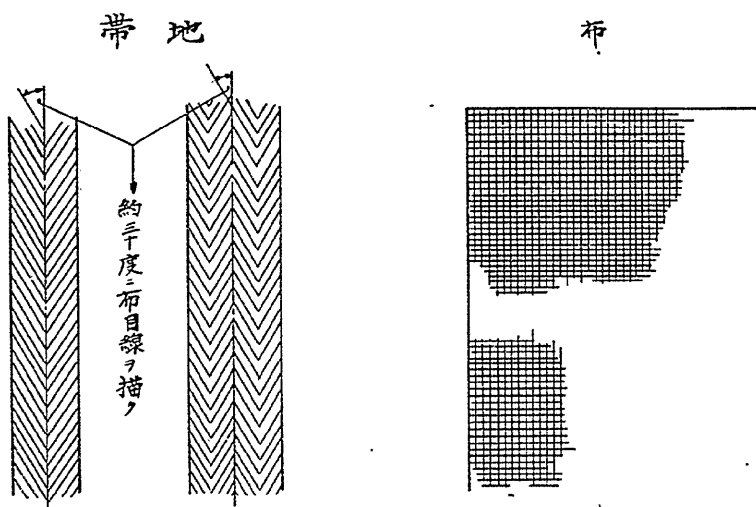
番号及名称	品 質	頁 数	摘 要
1 蓋板(鋼)	鋼(第三種)	2	軸(棒鋼第三種)共
2 握把	鋼(第一種)	2	
3 蓋板(鋼)	鋼(第四種)	2	
4 握把	鋼(第二種)	2	

分解セル鋌ノ場合

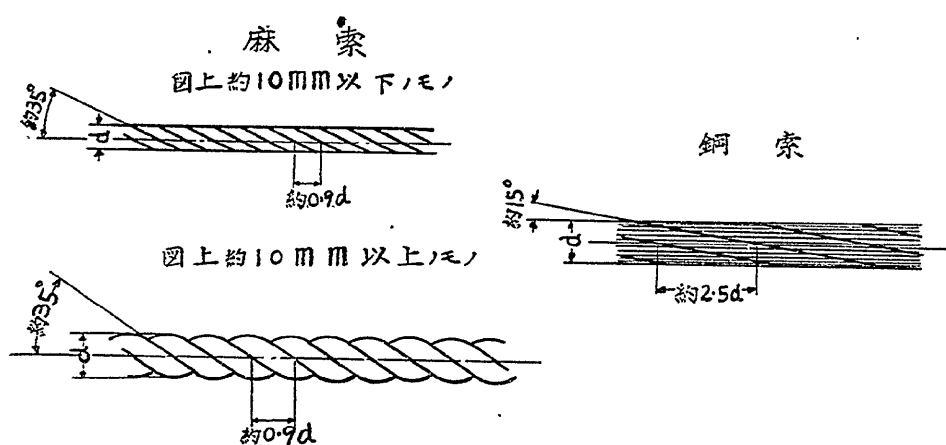


- 備考 一 鋌ノ寸法ハ徑及縮付寸法ノミヲ記入シ他ハ省略スルモノトス
 二、鋌ノ徑ノ表示方法ハ日本標準規格鋌表ノ備考ニ依ルモノトス
 三、圖上 5mm 未満ノ鋌及鋌孔ノ表示ニ在リテハ頸根ノ丸味ノ圖示ヲ省略スルコトヲ得
 四、鋌ノ名稱ハ「罐用鋌」等ノ如ク特ニ區分ヲ要スルモノノ外總テ單ニ「鋌」ト記入スルモノトス
 五、鋌ノ用途ヲ示ス部品番號ハ被結合部品ノ番號トス

布目ノ圖示ヲ要スル場合



撚目ノ圖示ヲ要スル場合

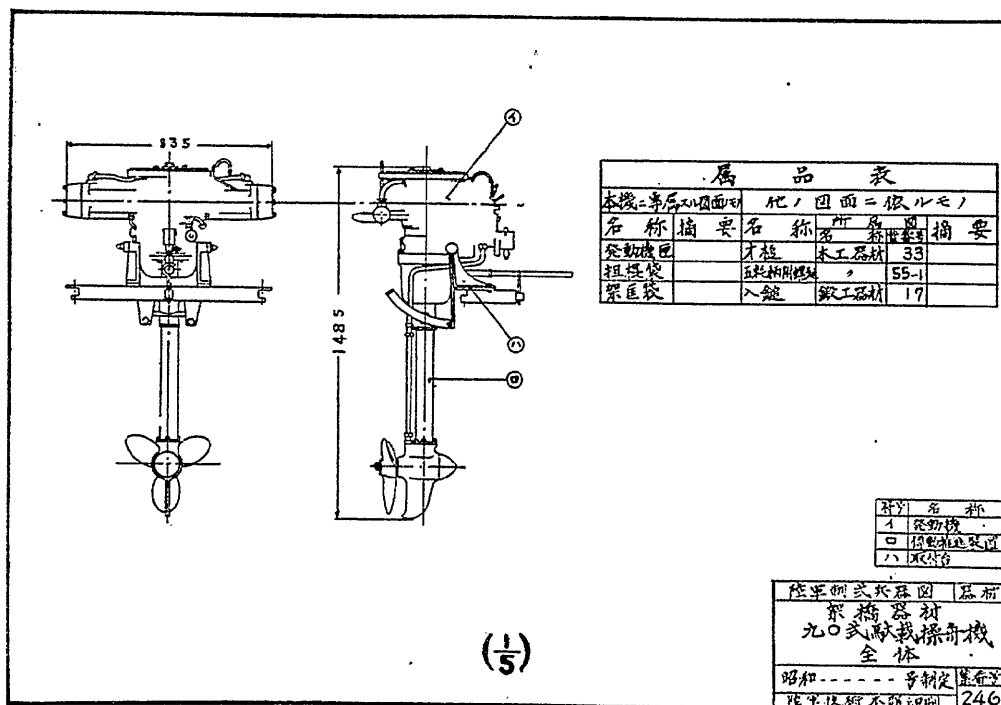


第 1 圖 (本圖ハ全體圖ノ次ニ置ク)

屬 品 表					
本兵器ニ專屬スル面ノモノ			他ノ面ニ依ルモノ		
名 称	摘 要	名 称	所 属 部 門	品 番 号	摘 要
砲身破		鉸鎖鉸	砲身破備品	53	
砲口蓋		砲身破備品	砲身破備品	70	
砲尾蓋		蒙眼鏡匣	〃	〃	
植	左右両脚上面ニ縛着	小山鉸	三八式野砲	132	
播棍	右脚・内側ニ縛着	小目打	砲工具	27	
坐椅	軸坐ニ縛着	砲機軸鉸鎖	(JES)		鉸鎖布ニ装ス
彈架匣		砲機軸鉸鎖	〃		
眼鏡		鏡柄	(基鏡柄)		
眼鏡匣		水囊	(共)	第1号	前車下面ニ装ス
圧力計		繫馬杭	〃	第8号	前車前部ニ縛着
圧力計匣		繫馬索	〃	第9号	〃
注液唧筒		内起	〃	第15号	前車下面ニ装ス
挾布		十字鉸	〃	第16号	前車右側ニ装ス

陸軍制式兵器図 第43図
 九〇式野砲附屬
屬品表
 昭和-----号制定 陸軍技術本部印刷
 図番号 3

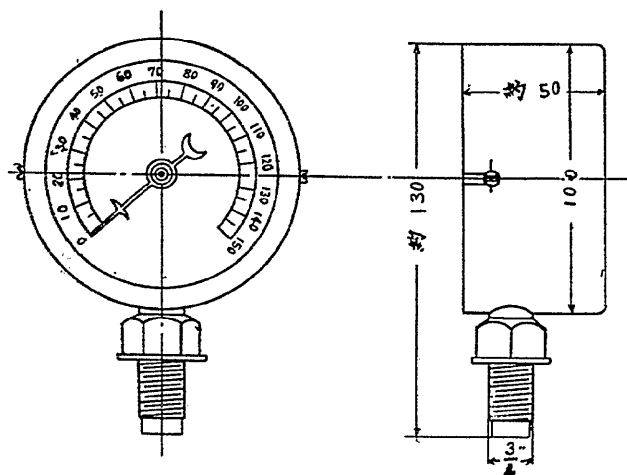
第 2 圖



(1/5)

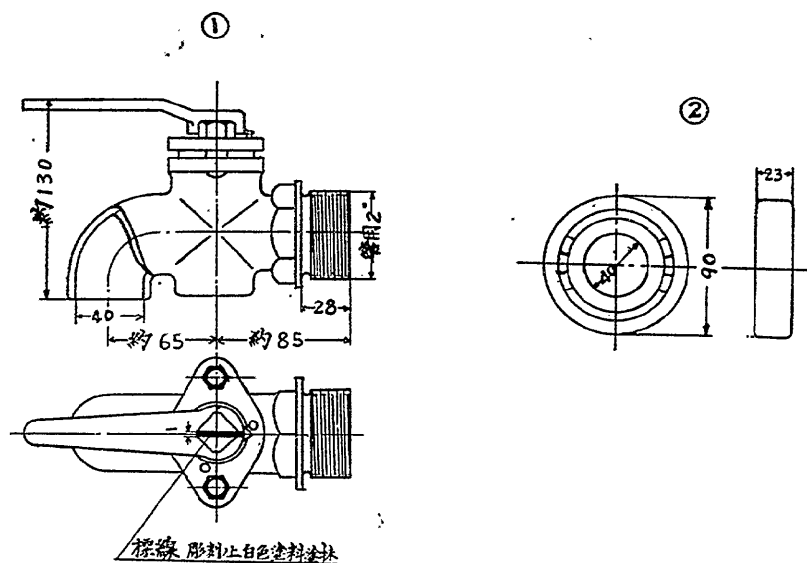
第 1 例

圧 力 計



註記 一、本器ハ普通販賣品ニ依ル
 二、計量高 150 氣壓ニシテ 5 氣壓
 毎ニ目盛ヲ有スルモノトス

第 2 例



番号及名称	品 質	頁数	摘 要
1 コック	青銅	1	普通販賣品
2 球軸受		1	普通販賣品何々 No. 40

A		頁 1			B
陸軍制式兵器圖 要塞兵器		四年式十五糎榴彈砲修正表			修正理由
葉番号	修正部名称	修正箇所	現 行	訂 正	
1		前車左下部		切貼	部品修正ニ伴ヒ
2				引替	同上
3-1				追加	砲車運行ヲ容易ニスル為
7	腔綫蹠度	寸法	1640	1573.4	機能ヲ良好ニスル為
9	②複坐ばね	註記	494mm=壓縮シテ其ノ抵抗力 900Kgヲ1100Kgノモリヲ要ス	480mm=壓縮シテ其ノ抵抗力 900Kgヲ1200Kgノモリヲ要ス	同上
20		側面右方(3箇所)		切貼	部品修正ニ伴ヒ
		平面ノAB.CD断面			
36	②内環			切貼	機能ヲ良好ニスル為
	②砲耳室板				

頁 2

葉番号	修正部名称	修正箇所	現 行	訂 正	修正理由

備考 一、構造要領ノ修正表ニ在リテハA部ヲ「陸軍兵器構造要領」ト記入ス

二、制式圖ト製作圖トノ葉番號ヲ別途ニ附與シアル

圖面ノ修正ニ於テハ制式圖ト製作圖トノ區分ヲ

葉番號欄ニ次ノ如ク記入スルモノトス

制 2		製 3		制 2	
・ 3		・ 7		・ 3	
				・ 7	

三、制式區分及兵器圖ノ分類ハ既往ノ圖面ニ關セズ總テ現行ノ様式ニ依リ記入スルモノトス例
 ハ「陸軍兵器製作圖、要塞彈藥」トアルヲ「陸軍制式兵器圖、彈藥」ト記入スルカ如シ

四、修正部名稱欄及修正箇所欄ニ記入スル記事ハ之ヲ簡單ニシ該記事ノ幅狹ヲ避クルモノトス。
 例ハ本附圖ノ例ニ於テ葉番 1.ハ「接續砲車前車ノ左下部」ヲ「前車ノ左下部」ト略記シ葉
 番 2 及 3-1 ハ單ニ「引換」及「追加」ト記入シテ他欄ノ記事ヲ省略シ葉番 20. 36 ハ修正圖
 ヲ貼附スヘキ場所ヲ示ス程度ノ記事トセルカ如シ

五、同一部ノ修正ニ要スル切貼圖ノ圖片カ 2 片以上ノ場合ニ其ノ各圖片ニ適當ナル指摘名稱ヲ
 附與シ得サルトキハ必ス其ノ切貼箇所數ヲ修正表ニ記入スルモノトス例ハ本附圖ノ例ニ
 於テ葉番 20 ニ「側面右方(3 箇所)」トアルカ如シ

六、本修正表ハ上申用ノモノヲ示スモノニシテ發布用ノモノニ在リテハ修正理由ヲ削除シB部
 ニ修正年月日及番號ヲ記入スルモノトス

第一 用途

一 本機は塗料部及び大口径の射撃機に塗料を施すために用いられ、塗料を貯蔵し、噴射する構造を有する。

第二 構造機能概要

二 本機は噴射機、電動機、空気圧搾機、空気管及び之の接続装置等から構成され、塗料を貯蔵し、噴射する構造を有する。

三 塗料を貯蔵し、噴射する構造を有する。塗料は供給される空気圧搾機によって、給送管を経て噴射機に送られ、噴射される。

四 噴射機は塗料を噴出停止及び噴出量を調節し、給送管の作用を引継ぎ、依り給送管に接続する。

五 電動機は工率約3馬力、揮発油を動力とする。

六 空気圧搾機は自動負荷加減装置を有する。

モニシタ其の性能は次の通り

最大気圧 7 kg/Cm²

圧搾空気量 毎分約0.4m³(1気圧の場合)

七 空気管は其の容量約0.03m³の安全弁及び排気口を有する。

八 塗料管は其の容量約0.03m³の安全弁及び排気口を有する。

九 ゴム管は区画及び其の長さの表は次の通り

区 画	長さ
給送管	約 15.0
送気管	約 8.5
塗料管	約 8.5

十 本機は3箇の鉄輪及び牽引装置を有する。電動機、空気圧搾機、空気管及び塗料管は、装置の搬送間、塗料管の接続、排気口、給送管の接続、及び外物の衝突、對シ機械の各部防護用、防護ス。

十一 本品の仕様は示す如きモノヨリ成り噴射口は、其の属品に依り異なる。

名 称	規 格	備 考
ゴム管	1	塗料管に使用スルモノ
油圧	1	電動機に使用スルモノ
排気	1	塗料管に使用スルモノ
安全弁	1	塗料管に使用スルモノ

十二 本機/重量概次の通り

全備重量 約 350 kg

内訳

車 輛 約 288 kg

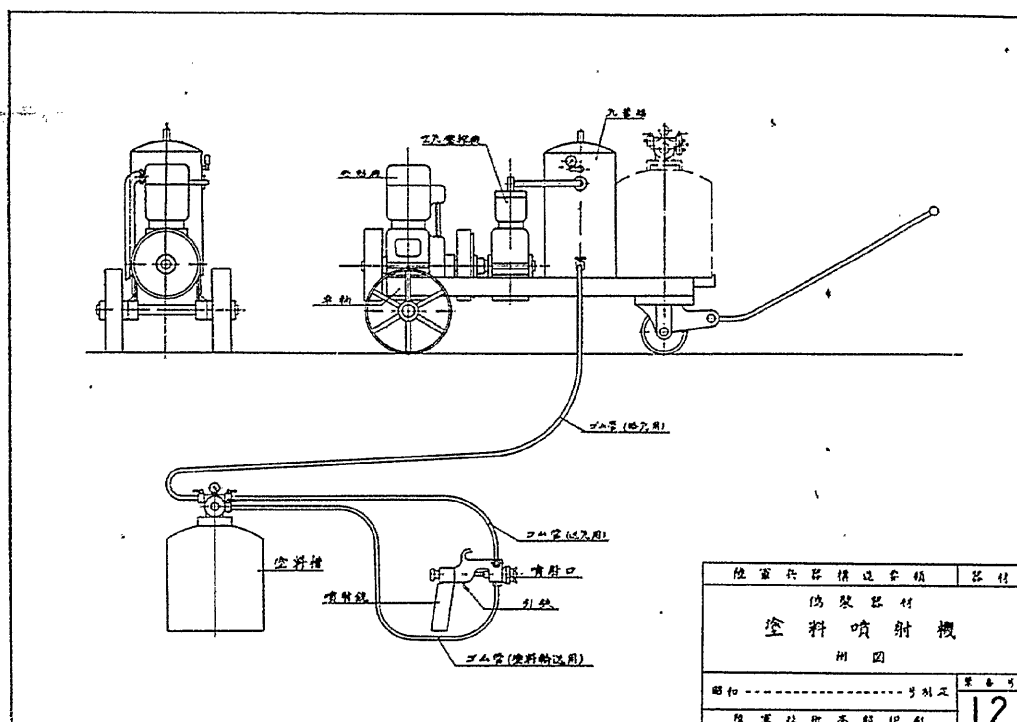
塗料管 約 27 kg

属品 約 35 kg

第三 特 意 注 意 ス 事 項

十三 第九項のゴム管は、送気管及び塗料管に用い、在リテハ、概略表示モノに依り、可トスルモノ。給気管は在リテハ、噴射作業の状況に應じ、所要ノ長トスルモノトス。

陸軍兵器構造要領	部 材
偽 装 器 材	
塗 料 噴 射 機	
昭和-----年制定	第 5 号
陸軍技術本部印刷	11



陸軍兵器構造要領	部 材
偽 装 器 材	
塗 料 噴 射 機	
附 図	
昭和-----年制定	第 5 号
陸軍技術本部印刷	12